

# Pioneer Dj

DJミキサー

# DJM-S9

serato || serato  DJ

<http://pioneerdj.com/support/>

上記のPioneer DJサイトでは、困ったときのよくある質問やソフトウェアの情報など、より快適に製品をお使いいただくための各種情報やサービスを提供しております。

<http://serato.com>

最新版のSerato DJソフトウェアはSerato.comにアクセスしてダウンロードしてください。

## 取扱説明書

---

---

# もくじ

## 01 はじめに

本機の特長 .....	3
付属品を確認する .....	3
ソフトウェアをインストールする .....	3

## 02 各部の名前とはたらき

ブラウザ部 .....	6
デッキ部 .....	6
ミキサー部 .....	7
エフェクト部 .....	8
本体背面部 .....	8
本体前面部 .....	9

## 03 接続する

入力端子に接続する .....	11
出力端子に接続する .....	12

## 04 操作する（基本編）

システムを起動する .....	13
システムを終了する .....	15

## 05 操作する（応用編）

パフォーマンスパッドを使う .....	16
ユーザーモードを使う .....	18
FX TRIGGER モードを使う .....	19
フェーダースタート機能を使う .....	19
曲を解析する .....	19
エフェクトを使う .....	20
録音機能を使う .....	20
外部入力を使う .....	21
エフェクトの種類 .....	22
FX BANK 機能を使う .....	24

## 06 DVS システムを使う

Serato DJ ソフトウェアをコントロールする前に .....	25
Serato DJ ソフトウェアをコントロールする .....	26

## 07 設定を変更する

クロスフェーダー部のクッションを交換する .....	30
ユーティリティモードで本機の設定を変更する .....	33
設定ユーティリティで本機の設定を変更する .....	34

## 08 その他

故障かな？と思ったら .....	36
ブロックダイヤグラム .....	37
保証とアフターサービス .....	37
商標および登録商標について .....	38
著作権についてのご注意 .....	38

# はじめに

## 本書の見かた

- このたびは、Pioneer DJ 製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。この冊子と、本機に付属している「取扱説明書（クイックスタートガイド）」を必ずお読みください。両方とも、この製品の使用前にご理解いただくべき重要事項が含まれています。
- 本書では、製品本体およびコンピューター画面に表示される画面名、メニュー名、ボタン名および端子名などを、[ ] で囲んで記載しています。（例：[CUE] ボタン、[Files] パネル、[MIC] 端子）
- 本書で説明しているソフトウェアの画面と仕様、およびハードウェアの外観と仕様は、開発途中のものであり、最終仕様と異なる場合がありますがご了承ください。
- 本書で説明している手順については、OS のバージョン、ウェブブラウザの設定などにより記載の動作と異なる場合がありますがご了承ください。

## 本機の特長

本機は、Serato 社製 DJ ソフトウェア「Serato DJ」を使った DJ プレイのために、最適に設計された 2 チャンネルミキサーです。Serato DJ に対応したサウンドカードを 2 つ内蔵しているため、USB ケーブル 1 本でコンピューターと接続し、面倒な設定をすることなく、すぐに「Serato DJ」を使った演奏を始められ、DJ 交代もスムーズに行えます。CONTROL VINYL (レコード) または CONTROL CD を用いて「Serato DJ」のスクラッチ機能をコントロールすることができます。また世界中のクラブの標準機となっている当社 DJM シリーズの高音質・高信頼性設計および操作性の高いパネルレイアウトを採用することにより、DJ のパフォーマンスを強力にサポートします。

## MAGVEL FADER PRO

クロスフェーダーにはスクラッチプレイに対応するため、操作性、耐久性が高く、さらには動作を調整できる新開発の「MAGVEL CROSS FADER PRO」を搭載しました。

操作負荷を最適な重さに調整できる「FEELING ADJUST」機能と、不要な跳ね返り動作を軽減する機構に加え、お好みのフェーダークッションに交換することで高い操作性を実現しました。

また、カーブ特性の調整やリバース機能を搭載するなど、スクラッチスタイルに応じて細かく動作を設定できます。

## MULTI-COLOR PERFORMANCE PADS

「Serato DJ」に搭載されている HOT CUE や SAMPLER を操作できるラバー製のパッドを各チャンネルに 8 個ずつ搭載しました。

20 mm x 20 mm の大型サイズのパッドにはストロークの短いシートスイッチを採用し、軽いタッチでも反応するよう最適化することで高レスポンスを実現しました。

8 種類のパッドモードを瞬時に把握できる有機 EL ディスプレイと、「Serato DJ」の動作と連動してパッドの色が変化するマルチカラー対応により、「Serato DJ」の豊富な機能を最大限活用した DJ パフォーマンスができます。

## BEAT EFFECTS

ビートに連動した 15 種類の「BEAT FX」と、「Serato DJ」の豊富なエフェクトで、多彩なアレンジができます。

エフェクト選択ボタンに割り当て各 6 種類のエフェクトを他のエフェクトに簡単に入れ換えることができ、よく使うエフェクトとそのパラメーターを、簡単な操作で素早く呼び出すことができます。また [FILTER] ツマミで各チャンネルに独立してフィルターエフェクトをかけることができます。[FILTER] ツマミは、FILTER 以外の別のエフェクトに入れ換えることができます。

## DUAL SOUND CARDS

コンピューターを接続するための USB サウンドカードを 2 つ搭載しており、コンピューターを同時に 2 台接続することができます。天面に搭載した [INPUT SELECT] スイッチでそれらを切り換えることができるので、Serato DJ ユーザー同士の DJ 交代がスムーズにできます。また、「Serato DJ」の DVS (Digital Vinyl System) 機能に対応しているため「Serato DJ」のスクラッチ機能を DJ プレーヤーやアナログプレーヤーで操作することができます。

## HIGH SOUND QUALITY

当社ハイエンド DJ プレーヤー「CDJ-2000NXS」や DJ ミキサー「DJM-2000NXS」に採用しているウォルフソン社製の高性能 D/A コンバーターの採用に加え、同様の高音質設計により、原音に忠実で迫力のある音を実現しています。さらに電源ケーブルとの接触面積が広い AC インレットを採用したことで接触抵抗を低減し、大音量環境下の DJ プースでも安定した音を再生します。

## 付属品を確認する

- 電源コード
- USB ケーブル
  - 本機には USB ケーブルは 1 本しか付属されておりません。2 台接続時には、USB 2.0 に準拠したケーブルをお使いください。
- フェーダークッション A x 4<sup>①</sup>
- フェーダークッション B x 2<sup>①</sup>
- 保証書<sup>②</sup>
- 取扱説明書（クイックスタートガイド）
- Serato DJ CONTROL CD x 2

① フェーダークッション A、フェーダークッション B は製品のパネル内に収納されています。

パネルのはずし方については「クロスフェーダー部のクッションを交換する」(p.30)をご覧ください。

② 「取扱説明書（クイックスタートガイド）」の裏表紙に該当内容が記載されています。

## ソフトウェアをインストールする

### ソフトウェアをインストールする前に

Serato DJ ソフトウェア、ドライバーソフトウェアは付属されていません。Pioneer DJ サポートページにアクセスして、ソフトウェアをダウンロードしてください。  
<http://pioneerdj.com/support/>

- インターネットの接続に必要なコンピューター、ネットワーク機器、その他のインターネット利用環境はお客様でご用意ください。

### ドライバーソフトウェアについて

本ドライバーソフトウェアは、コンピューターからの音声を出力するための専用ドライバーです。

#### ❖ ドライバーソフトウェアを入手する

1 コンピューターでウェブブラウザを起動し、下記の Pioneer DJ サイトにアクセスする

<http://www.pioneerdj.com/>

- 画面を日本語表示に切り換えるには、画面を下にスクロールさせ、画面右下の [EN] の表示をクリックし、[JA] を選択してください。

## 2 [Support] アイコンをクリックする

3 [ソフトウェア&ファームウェアのアップデート] をクリックしたあと、[MIXER] カテゴリーの中から **DJM-S9** を選択しクリックする

4 [Drivers] をクリックしたあと、ダウンロードページから最新のドライバーソフトウェアをダウンロードする

## Serato DJ ソフトウェアについて

Serato DJ は Serato 社製の DJ ソフトウェアです。このソフトウェアをインストールしたコンピューターと本機を接続して DJ プレイを楽しむことができます。

### 最低動作環境

対応 OS	CPU および必要メモリー
Mac OS X: 10.10, 10.9, 10.8	Intel® プロセッサ, Core™ i3, i5 および i7 1.07 GHz 以上 4 GB 以上の RAM
Windows: Windows 8.1, Windows 7	Intel® プロセッサ, Core™ i3, i5 および i7 1.07 GHz 以上 4 GB 以上の RAM
その他	
USB ポート	コンピューターと本機を接続するために USB 2.0 ポートが必要です。
ディスプレイ解像度	1280 x 720 以上の解像度
インターネット接続	「Serato.com」のユーザーアカウントの登録やソフトウェアのダウンロードのため、インターネット接続環境が必要です。
HDD 空き容量	5 GB

- 最新の動作環境、互換性、および対応 OS に関する情報は、下記の Pioneer DJ サイト サポートページの「DJM-S9」の「ソフトウェア対応情報」を参照してください。  
<http://pioneerdj.com/support/>
- 記載の動作環境を満たしている、すべてのコンピューターにおける動作を保証するものではありません。
- コンピューターの省電力設定などの状態によっては、CPU やハードディスクの処理能力を十分に発揮できないことがあります。特にノート型コンピューターをお使いのときは、AC 電源を接続するなどして、常に高パフォーマンス状態のセッティングで Serato DJ をお使いください。
- インターネットをお使いになるときは、インターネットサービスを提供しているプロバイダーとの契約・料金が別途必要です。
- OS は最新のバージョン、サービスパックをお使いください。

### ❖ Serato DJ ソフトウェアを入手する

1 コンピューターでウェブブラウザを起動し、下記の Serato DJ ホームページにアクセスする

<http://serato.com/dj/downloads>

2 「Serato.com」のユーザーアカウントでログインする

- すでに「Serato.com」のユーザーアカウントを登録されているお客様は、手順 4 にお進みください。
- ユーザーアカウントの登録が完了していないお客様は、以下の操作をしてユーザーアカウントの登録を行ってください。
  - 画面の指示に従って、E-mail アドレス、設定したいパスワードを入力し、お住まいの地域を選択してください。
  - [E-mail me Serato newsletters] にチェックを入れると、Serato 社からのニュースレターが送信され、Serato 社製品の最新情報を入手できます。
  - ユーザーアカウント登録が完了すると、入力した E-mail アドレスに E-mail が送信されますので、「Serato.com」から送信された E-mail の内容を確認してください。
- ユーザー登録の際にご指定いただきましたお客様の E-mail アドレスとパスワードは、お忘れにならないように十分ご注意ください。ソフトウェアのアップデートをするときに必要になります。
- 新規ユーザーアカウントの登録時に入力する個人情報は、Serato 社ウェブサイトの個人情報保護方針に基づき、収集、処理、使用されます。

3 「Serato.com」から送信された E-mail に記載されているリンク先をクリックする

Serato DJ のダウンロードページに進みます。手順 5 にお進みください。

4 ログインする

登録した E-mail アドレスおよびパスワードを入力し、「Serato.com」にログインします。

5 ダウンロードページから、Serato DJ ソフトウェアをダウンロードする

## インストール手順について

Windows も Mac も共にドライバーソフトウェアのインストール後に Serato DJ ソフトウェアのインストールを行ってください。

### ❖ インストール手順 (Windows)

インストールが完了するまでは、本機とコンピューターを接続しないでください。

- コンピューターの管理者に設定されているユーザーでログイン（またはログオン）してからインストールしてください。
- コンピューター上で他に作業中のプログラムがあれば、すべて終了させてください。

1 ダウンロードしたドライバーソフトウェア (DJM\_S9\_x.xxx.exe) をダブルクリックする

2 画面の指示に従ってインストールする

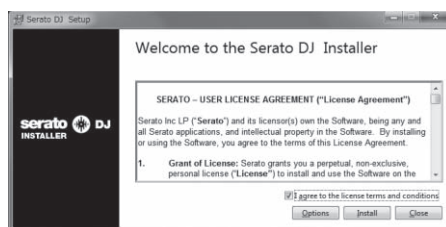
インストールの途中で [Windows セキュリティ] 画面が表示されることがありますが、[このドライバーソフトウェアをインストールします] をクリックしてインストールを続行してください。

インストールプログラムが終了すると終了メッセージが表示されます。ドライバーソフトウェアのインストールに続いて、Serato DJ ソフトウェアのインストールを行ってください。

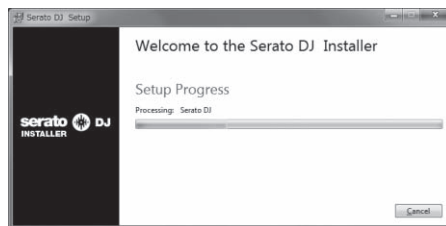
3 ダウンロードした Serato DJ ソフトウェアファイルを解凍する

4 解凍したソフトウェアファイルをダブルクリックして、インストーラーを起動させる

5 使用許諾契約の内容をよく読み、同意する場合は [I agree to the license terms and conditions] を選択し、[Install] をクリックする

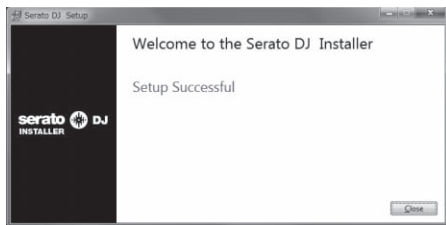


- 使用許諾契約の内容に同意しないときは、[Close] をクリックしてインストールを中止してください。インストールが始まります。



インストールが完了すると、インストール完了画面が表示されます。

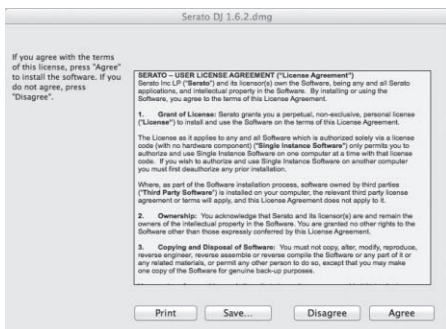
## 6 [Close] をクリックして Serato DJ インストーラーを終了させる



### ❖ インストール手順 (Mac OS X)

インストールが完了するまでは、本機とコンピューターを接続しないでください。

- コンピューター上で他に作業中のプログラムがあれば、すべて終了させてください。
- 1 ダウンロードしたドライバーソフトウェア (DJM-S9\_M\_X.X.X.dmg) をダブルクリックする
  - 2 画面の指示に従ってインストールする
  - 3 ダウンロードした Serato DJ ソフトウェアファイルを解凍する
  - 4 解凍したソフトウェアファイルをダブルクリックして、インストーラーを起動させる
  - 5 使用許諾契約の内容をよく読み、同意する場合は [Agree] をクリックする



- 使用許諾契約の内容に同意しないときは [Disagree] をクリックしてインストールを中止してください。

## 6 下記の画面が表示されたら、[Serato DJ] アイコンを [Applications] フォルダーアイコンにドラッグアンドドロップする

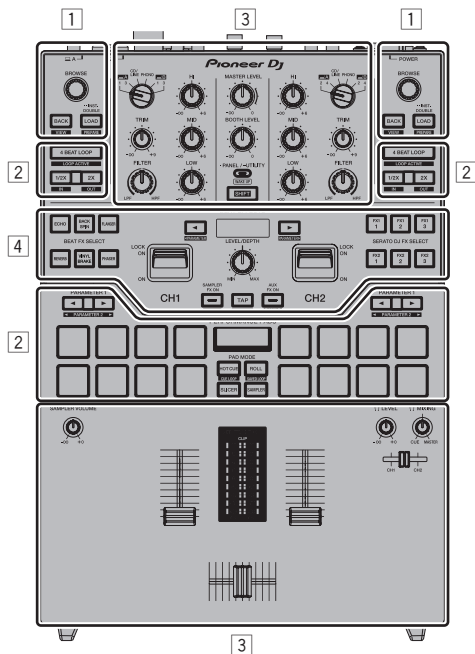


## Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする

1 コンピューターでウェブブラウザを起動し、下記の Serato DJ ホームページにアクセスする  
<http://serato.com/dj/downloads>

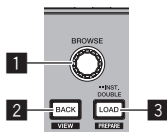
2 ダウンロードページの右側にある「Manuals and Quickstart guides」をクリック後、該当のマニュアルをクリックする  
 Serato DJ のソフトウェアマニュアルのダウンロードが始まります。

# 各部の名前とはたらき



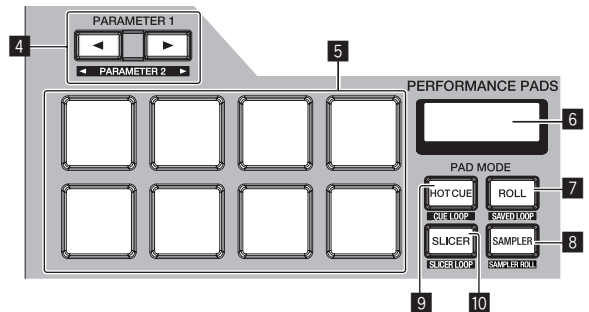
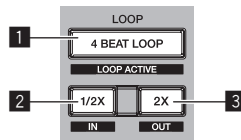
- 1 ブラウザー部
- 2 デッキ部
- 3 ミキサー部
- 4 エフェクト部

## ブラウザー部



- 1 **ロータリーセレクトター**  
 回す：  
 カーソルが上下に移動します。  
  
 押す：  
 次の階層を表示します。
- 2 **BACK ボタン**  
 カーソルが前の階層に移動します。  
  
 [SHIFT] + 押す：  
 Serato DJ のレイアウトを切り換えます。
- 3 **LOAD ボタン**  
 選んでいるトラックをそれぞれのデッキにロードします。  
  
 [SHIFT] + 押す：  
 [Prepare] パネルにトラックをロードします。

## デッキ部



- 1 **4BEAT LOOP ボタン**  
 4 拍のオートループをオンします。  
  
 [SHIFT] + 押す：  
 ループのアクティブ状態 / 非アクティブ状態を切り換えます。  
 (ループアクティブ)
- 2 **LOOP 1/2X ボタン**  
 ループ再生の長さを半分にします。  
  
 [SHIFT] + 押す：  
 ループインポイントが設定されます。
- 3 **LOOP 2X ボタン**  
 ループ再生の長さを 2 倍にします。  
  
 [SHIFT] + 押す：  
 ループアウトポイントが設定され、ループ再生を始めます。
- 4 **PARAMETER◀ ボタン、PARAMETER▶ ボタン**  
 「ループロール」、「スライサー」、「サンプラー」などのパラメーターを設定します。  
  
 [SHIFT] + 押す：  
 「スライサー」、「サンプラー」などの第 2 パラメーターを設定します。
- 5 **パフォーマンスパッド**  
 「ホットキュー」、「ループロール」、「スライサー」、「サンプラー」などをコントロールします。
- 6 **PAD 部ディスプレイ**  
 現在設定されている PAD のモードやパラメーター等を表示します。
- 7 **ROLL モードボタン**  
 ロールモードに設定します。  
  
 [SHIFT] + 押す：  
 セーブドループモードに設定します。
- 8 **SAMPLER モードボタン**  
 サンプラーモードに設定します。  
  
 [SHIFT] + 押す：



サンプラーロールモードに設定します。

## 9 HOT CUE モードボタン

ホットキューモードに設定します。

[SHIFT] + 押す：

キューループモードに設定します。

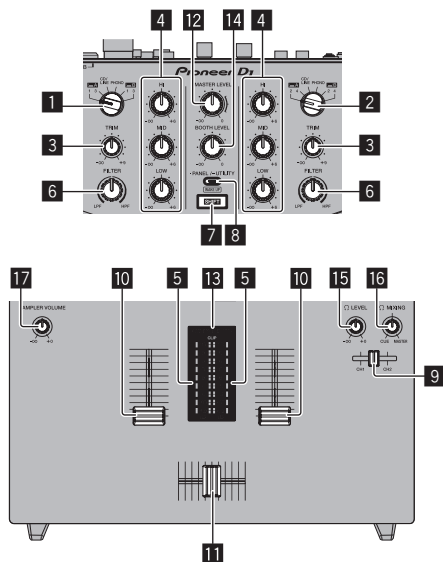
## 10 SLICER モードボタン

スライサーモードに設定します。

[SHIFT] + 押す：

スライサーループモードに設定します。

## ミキサー部



### 1 INPUT SELECT スイッチ (CH1 側)

本機に接続している機器の中から、CH1 の入力ソースを切り換えます。

- [USB-A DECK1]：[USB-A] 端子に接続されたコンピューターの Serato DJ ソフトウェア上にある DECK1 にロードされたトラックを使うときに選択します。
- [USB-A DECK3]：[USB-A] 端子に接続されたコンピューターの Serato DJ ソフトウェア上にある DECK3 にロードされたトラックを使うときに選択します。
- [CD/LINE]：[CD/LINE] 端子に接続した DJ プレーヤーなどのラインレベル出力機器を使うときに選択します。
- [PHONO]：[PHONO] 端子に接続したアナログプレーヤーなどのフォノレベルの出力機器を使うときに選択します。
- [USB-B DECK1]：[USB-B] 端子に接続されたコンピューターの Serato DJ ソフトウェア上にある DECK1 にロードされたトラックを使うときに選択します。
- [USB-B DECK3]：[USB-B] 端子に接続されたコンピューターの Serato DJ ソフトウェア上にある DECK3 にロードされたトラックを使うときに選択します。

### 2 INPUT SELECT スイッチ (CH2 側)

本機に接続している機器の中から、CH2 の入力ソースを切り換えます。

- [USB-A DECK2]：[USB-A] 端子に接続されたコンピューターの Serato DJ ソフトウェア上にある DECK2 にロードされたトラックを使うときに選択します。
- [USB-A DECK4]：[USB-A] 端子に接続されたコンピューターの Serato DJ ソフトウェア上にある DECK4 にロードされたトラックを使うときに選択します。
- [CD/LINE]：[CD/LINE] 端子に接続した DJ プレーヤーなどのラインレベル出力機器を使うときに選択します。

- [PHONO]：[PHONO] 端子に接続したアナログプレーヤーなどのフォノレベルの出力機器を使うときに選択します。
- [USB-B DECK2]：[USB-B] 端子に接続されたコンピューターの Serato DJ ソフトウェア上にある DECK2 にロードされたトラックを使うときに選択します。
- [USB-B DECK4]：[USB-B] 端子に接続されたコンピューターの Serato DJ ソフトウェア上にある DECK4 にロードされたトラックを使うときに選択します。

### 3 TRIM ツマミ

各 CH に入力される音声レベルを調整します。

### 4 ISO ツマミ

周波数域を増減させることができます。

### 5 チャンネルレベルインジケータ

各チャンネルのチャンネルフェーダー通過前の音声レベルを表示します。

### 6 FILTER ツマミ

フィルターエフェクトをかけます。

### 7 SHIFT ボタン

[SHIFT] ボタンを押しながら他のボタンを押すと、別の機能呼び出せます。

- [SHIFT] ボタンを使った操作の詳細については、各機能の操作説明をご覧ください。

### 8 PANEL/UTILITY ボタン

ボタンを押すたびに以下の順序でパネル表示を切り換えます。  
パネル表示オフ → [REC] パネル → [FX] パネル → [SP-6] パネル → パネル表示オフに戻る

[SHIFT] + 押す：

ボタンを押すたびに以下の順序でパネル表示を切り換えます。  
パネル表示オフ → [SP-6] パネル → [FX] パネル → [REC] パネル → パネル表示オフに戻る

1 秒以上押す：

長押しすると、本体の設定を変更するモードに切り換わります。

### 9 ヘッドホン CUE フェーダー

フェーダーの位置によって CH1 と CH2 の音声の割合が変化してヘッドホンから出力されます。チャンネルの音声のみをモニターしたい場合は、[HEADPHONES MIX] ツマミを CUE 側に回しきってください。

### 10 チャンネルフェーダー

動かす：

各チャンネルの音声を [CH FADER CURVE] 調整ツマミで選択しているカーブ特性に従って出力します。

[SHIFT] + 動かす：

チャンネルフェーダースタート機能を使います。

### 11 クロスフェーダー

動かす：

各チャンネルの音声を [CROSS FADER CURVE] 調整ツマミで選択しているカーブ特性に従って出力します。

[SHIFT] + 動かす：

クロスフェーダースタート機能を使います。

本機のクロスフェーダーは磁気による位置検知方式を採用しています。誤動作の原因となる場合がありますので、磁石や強い磁力を発生する機器を本機に近づけないようにしてください。

### 12 MASTER LEVEL ツマミ

マスター出力の音声レベルを調整します。

### 13 マスターレベルインジケータ

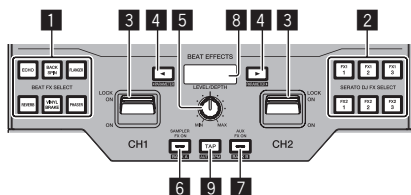
マスター出力の音声レベルを表示します。

出力レベルが大きすぎる場合は [CLIP] が点滅します。

- 遅い点滅：音がひずむ直前であることを示しています。
- 早い点滅：音がひずんでいることを示しています。

- 14 ブースモニターレベルツマミ**  
[BOOTH] 端子から出力される音声レベルを調整します。
- 15 HEADPHONES LEVEL ツマミ**  
[PHONES] 端子から出力される音声レベルを調整します。
- 16 HEADPHONES MIX ツマミ**  
ヘッドホン CUE フェーダーで選択しているチャンネルの音声と、マスターチャンネルの音声のモニター音量バランスを調整します。
- 17 SAMPLER VOLUME ツマミ**  
Serato DJ のサンプラーデッキ全体の音声レベルを調整します。

## エフェクト部



- 1 BEAT FX SELECT ボタン**  
各チャンネルに適用する BEAT FX を選択します。(複数同時に選択はできません)  
本機は選択ボタンに記載されている基本的なエフェクトのほかにも複数のエフェクトを搭載しています。  
詳しくは「エフェクトの種類」(p.22)を参照してください。
- 2 SERATO DJ FX SELECT ボタン**  
各チャンネルに適用する Serato DJ エフェクトを選択します。(複数同時に選択はできません)
- 3 EFFECT レバー**  
手前に倒している間、該当チャンネルに選択したエフェクトがかかります。奥側に倒すとロックがかかり、手を放してもエフェクトがかかり続けます。

- 4 BEAT ボタン**  
エフェクト音を同期させる拍の倍率を設定します。  
[SHIFT] + 押す：  
エフェクトのパラメーターを調整します。
- 5 LEVEL/DEPTH ツマミ**  
エフェクトの量的パラメーターを調整します。
- 6 SAMPLER FX ON ボタン**  
オンすると Serato DJ から出力されるサンプラー音に選択したエフェクトがかかります。

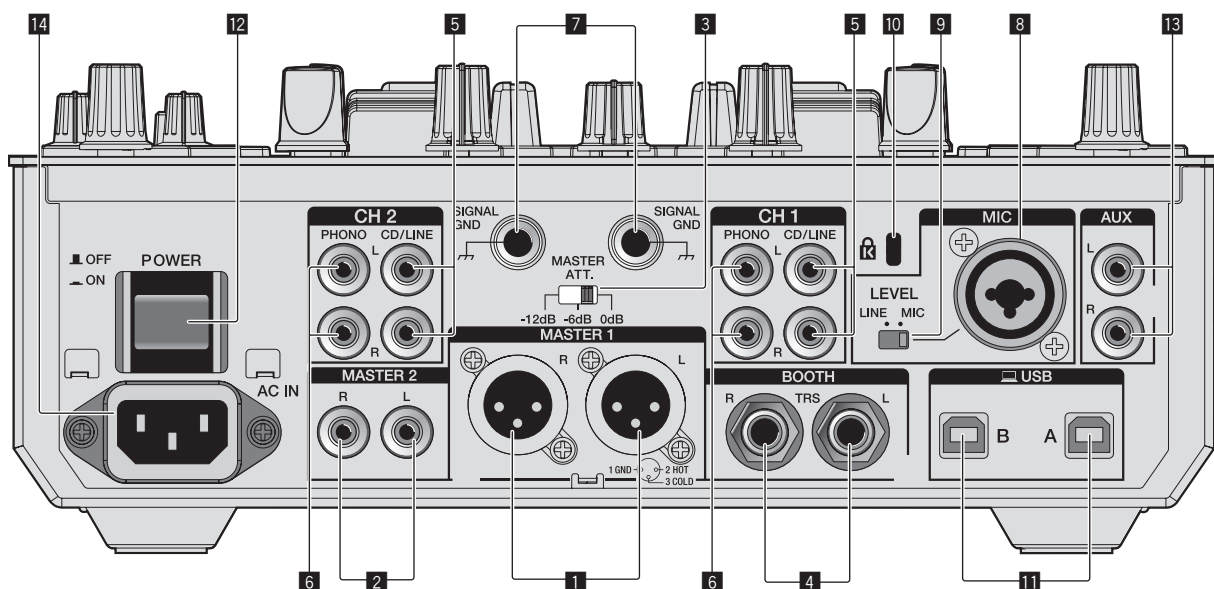
[SHIFT] + 押す：  
エフェクト BANK A の設定を本機にロードします。  
FX BANK の詳細に関しては、「FX BANK 機能を使う」(p.24)をご覧ください。

- 7 AUX FX ON ボタン**  
オンすると AUX 入力の音声に選択したエフェクトがかかります。  
[SHIFT] + 押す：  
エフェクト BANK B の設定を本機にロードします。  
FX BANK の詳細に関しては、「FX BANK 機能を使う」(p.24)をご覧ください。

- 8 エフェクト部ディスプレイ**  
現在選択中のエフェクト名や BPM 等を表示します。
- 9 TAP ボタン**  
Serato DJ のエフェクト選択時はボタンを長く押しと設定したエフェクト時間がリセットされます。  
押す：  
BPM の測定モードが [TAP] のとき、ボタンを指でたたいて手動で BPM を入力します。  
BPM の測定モードが [AUTO] のとき測定モードを [TAP] に切り換えます。

[SHIFT] + 押す：  
BPM の測定モードを [AUTO] に切り換えます。

## 本体背面部



- 1 MASTER 1 出力端子**  
パワードスピーカーなどを接続します。  
必ずバランス出力としてお使いください。他製品の電源コードを誤って挿入しないようにご注意ください。
- 2 MASTER 2 出力端子**  
パワーアンプなどを接続します。



**3 MASTER ATT レベル切換スイッチ**

[MASTER 1] 端子および [MASTER 2] 端子から出力される音声の減衰レベルを設定します。

- [0 dB]: [MASTER 1] 端子および [MASTER 2] 端子から出力される音声レベルはそのまま出力されます。
- [-6 dB]: [MASTER 1] 端子および [MASTER 2] 端子から出力される音声レベルが半分に下がります。
- [-12 dB]: [MASTER 1] 端子および [MASTER 2] 端子から出力される音声レベルが4分の1に下がります。

[MASTER 1] 端子、[MASTER 2] 端子に接続される機器によっては DJM-S9 の出力信号レベルが大きすぎる場合があります。接続される機器の音がひずんでしまう場合は、MASTER ATT を -6dB または -12dB に切り換えてください。

**4 BOOTH 出力端子**

ブースモニター用出力端子です。TRS 端子のため、バランス出力、アンバランス出力に対応しています。

**5 CD/LINE 入力端子**

DJ プレーヤーやラインレベルの出力機器と接続します。

**6 PHONO 入力端子**

アナログプレーヤーなどのフォノレベル (MM カートリッジ用) の出力機器と接続します。DJ プレーヤーなどのラインレベルの機器を接続しないでください。

[PHONO] 端子に機器を接続するときは、端子に差し込まれているショートピンプラグを取り外してください。

このショートピンプラグは、[PHONO] 端子に何も接続しないとき外部ノイズをカットするために差し込んで使います。

**警告**

ショートピンプラグは幼児の手の届くところに置かないでください。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。

**7 SIGNAL GND 端子**

アナログプレーヤーのアース線と接続します。アナログプレーヤー接続時の雑音低減を図ります。

**8 MIC 入力端子**

マイクを接続します。

**9 MIC 入力レベル切換スイッチ**

- [MIC]: [MIC] 端子にマイクを接続する場合に選択します。
- [LINE]: [MIC] 端子にラインレベルの出力機器を接続する場合に選択します。

**10 ケンジントンロック装着用穴****11 USB 端子**

コンピューターと接続します。

**12 POWER スイッチ**

本機の電源をオン/オフします。

**注意**

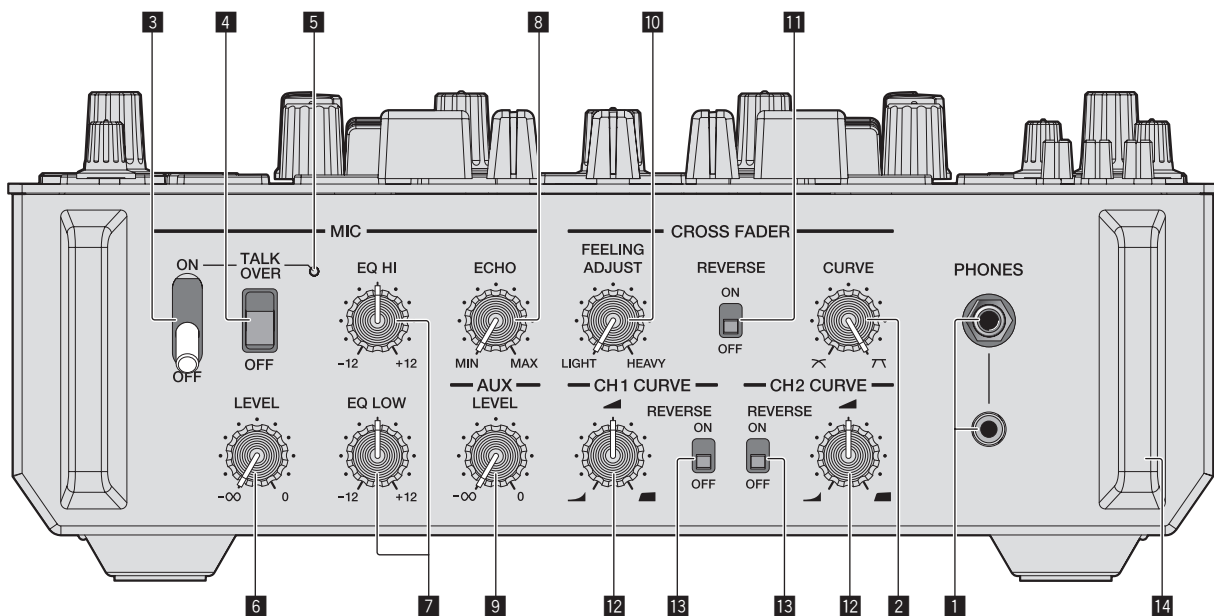
製品の仕様により、本体部やリモコン (付属の場合) のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらず見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ (遮断装置) をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ (遮断装置) に簡単に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

**13 AUX 入力端子**

外部機器 (DJ ミキサー、サンプラー、ポータブルオーディオ) の出力端子と接続します。

**14 AC IN**

付属の電源コードを使ってコンセントと接続します。電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。必ず付属の電源コードをお使いください。

**本体前面部****1 PHONES 端子**

ヘッドホンを接続します。  
1/4" ステレオフィオンプラグと 3.5 mm ステレオミニプラグに対応しています。

**2 CROSS FADER CURVE 調整ツマミ**

クロスフェーダーのカーブ特性を調整します。

**3 MIC ON OFF 切換スイッチ**

マイクをオン/オフします。

**4 MIC TALK OVER 切換スイッチ**

マイクオン中のトークオーバー機能のオン/オフを切り換えます。

**5 MIC インジケター**

マイクのオン/オフ状態、およびトークオーバー機能のオン/オフ状態を表示します。

- MIC オフ中：消灯
- MIC オン中：点灯
- トークオーバー中：点滅

**6 MIC LEVEL ツマミ**

[MIC] チャンネルから出力される音声レベルを調整します。

**7 MIC EQ (HI, LOW) ツマミ**

[MIC] チャンネルの音質を調整します。

**8 MIC ECHO ツマミ**

[MIC] チャンネルにかけるエコーエフェクトのパラメーターを調整します。

**9 AUX LEVEL ツマミ**

AUX チャンネルに入力される音声レベルを調整します。

**10 CROSS FADER FEELING ADJUST ツマミ**

クロスフェーダーの操作負荷を調整できます。

**11 CROSS FADER REVERSE スイッチ**

クロスフェーダーリバース機能をオン / オフします。

**12 CH FADER CURVE 調整ツマミ**

該当するチャンネルフェーダーのカーブ特性を調整します。

**13 CH FADER REVERSE スイッチ**

該当するチャンネルフェーダーリバース機能をオン / オフします。

**14 フロントガード**

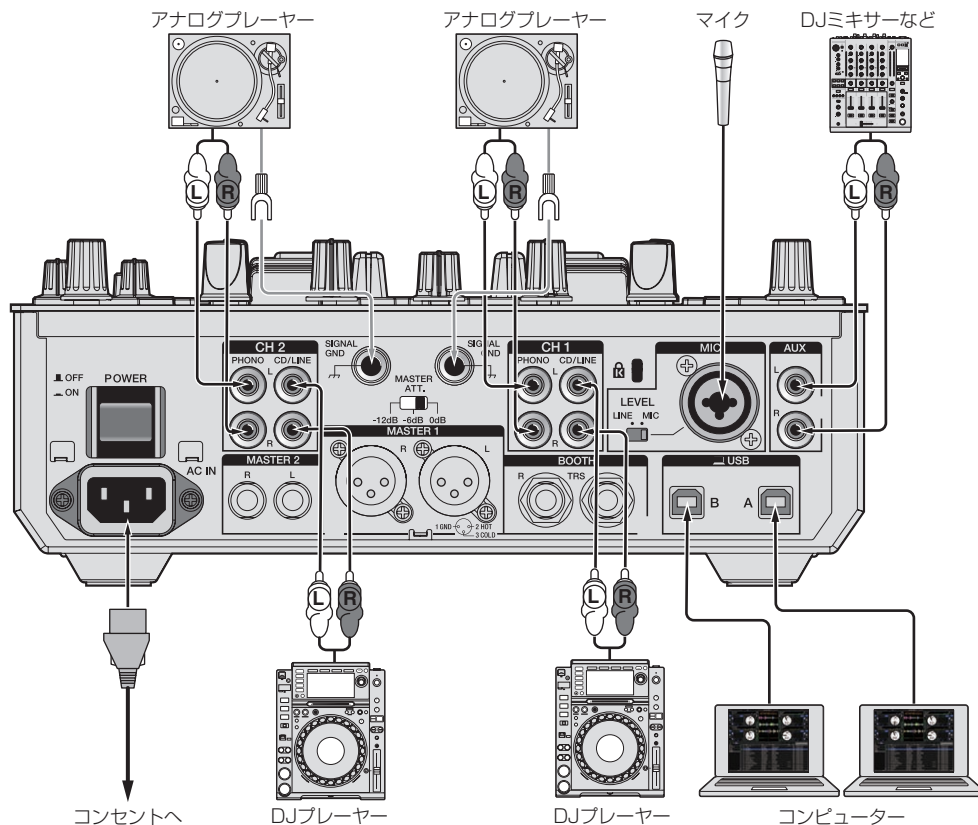
前面の端子やツマミを保護します。  
転倒の恐れがあるため製品の脚として使用しないでください。

# 接続する

- 電源コードは、機器の接続がすべて終わってから接続してください。
- 機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 必ず付属の電源コードをお使いください。
- 本機とコンピューターは USB ケーブルで直接接続してください。
- USB ケーブルは本製品に付属のもの、または USB2.0 に準拠したものをお使いください。
- USB ハブは使えません。

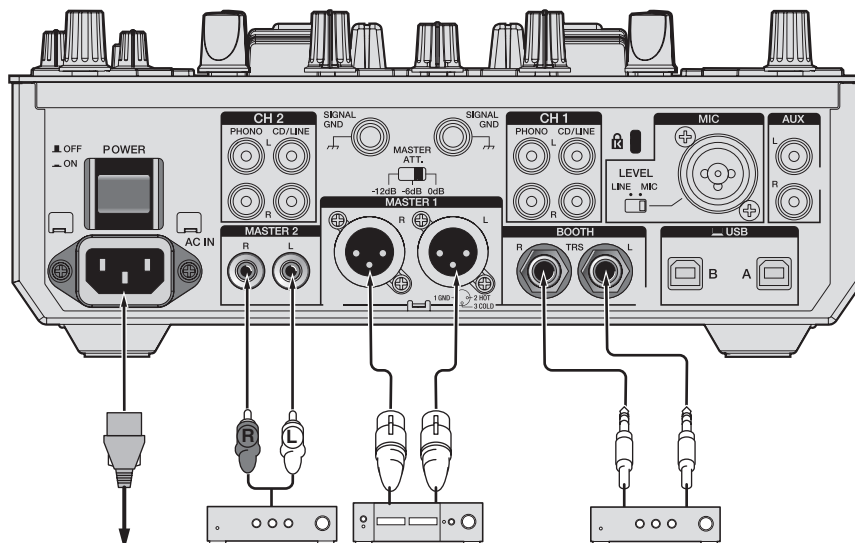
## 入力端子に接続する

- コンピューターやオーディオインターフェイスなどと組み合わせて DVS(Digital Vinyl System) を構築するときは、オーディオインターフェイスと本機の入力端子の接続および [INPUT SELECT] スイッチの設定にご注意ください。
- DJソフトウェアおよびオーディオインターフェイスの取扱説明書もあわせてご覧ください。

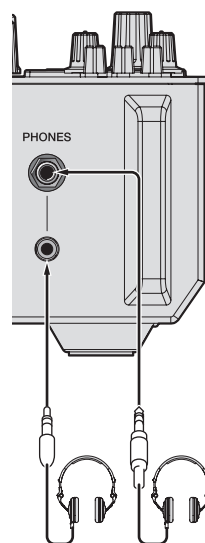


# 出力端子に接続する

本体背面部



本体前面部



コンセントへ

パワーアンプ<sup>①</sup>

パワーアンプ<sup>①②</sup>

パワーアンプ(ブースモニター用)

ヘッドホン

- ① **[MASTER 1]** 端子は必ずバランス出力としてお使いください。XLR-RCA 変換ケーブル (変換アダプター) などを使って、アンバランス入力 (RCA 等) へ接続すると、音質が悪くなったり、ノイズが発生する場合があります。アンバランス入力 (RCA 等) への接続には **[MASTER 2]** 端子をお使いください。
- ② **[MASTER 1]** 端子に他製品の電源コードを誤って挿入しないようにご注意ください。

# 操作する (基本編)

## システムを起動する

### Serato DJ を起動する

本書は、本機のハードウェアとしての機能を中心に説明が構成されています。詳しい Serato DJ ソフトウェアの操作については、Serato DJ のソフトウェアマニュアルをご覧ください。

⇒ 「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)

#### Windows 7 のとき

Windows の [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] > [Serato] > [Serato DJ] > [Serato DJ] のアイコンをクリックする

#### Windows 8.1 のとき

[アプリビュー] から、[Serato DJ] のアイコンをクリックする

#### Mac OS X のとき

Finder で [アプリケーション] フォルダを開いてから、[Serato DJ] のアイコンをクリックする

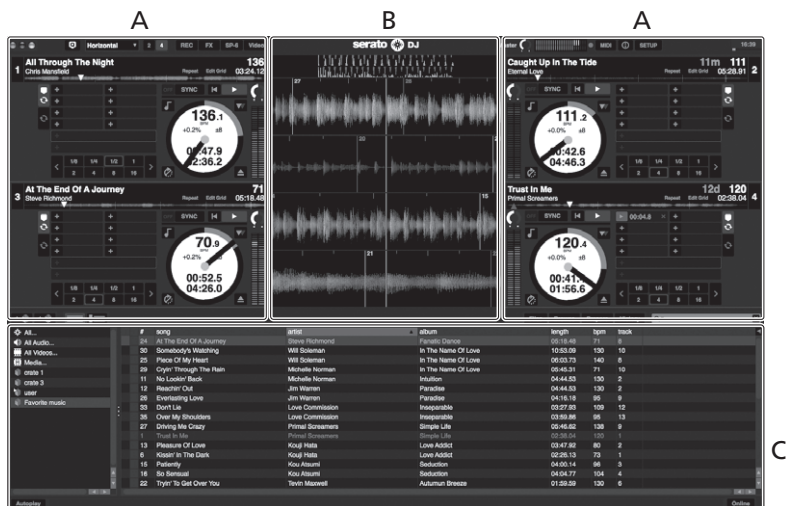
Serato DJ ソフトウェア起動直後のコンピューター画面 (右の画面は、本機が接続されていないとき)



1 DJM-S9 をお使いのお客様はアクティベーションやライセンスを購入する必要はありません。

### Serato DJ ソフトウェアに楽曲をロードしたときのコンピューター画面

コンピューター画面の左上にある [Library] をクリックして、プルダウンメニューから [Vertical] や [Horizontal] を選んで Serato DJ の画面を切り換えてください。



#### A デッキ部

ロードされたトラックの曲名、アーティスト名、BPM などのトラック情報や全体波形などを表示します。

#### B ウェーブフォームディスプレイ

ロードされたトラックの波形を表示します。

#### C ブラウザー部

ライブラリーの中の楽曲や複数の楽曲をまとめて保存した crate を表示します。

## 楽曲をインポートする

以下では、楽曲をインポートする代表的な操作方法について説明します。

- Serato DJソフトウェアでは、さまざまなインポート方法があります。詳細については、Serato DJのソフトウェアマニュアルをご覧ください。
  - ➔ 「Serato DJのソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)
- すでに Serato 社の DJ ソフトウェア (Scratch Live、ITCH、Serato DJ Intro) をお使いのお客様で、楽曲ライブラリーを作成されている場合は、以前作成した楽曲ライブラリーをそのまま使うことができます。
- Serato DJ Intro をお使いのお客様で、すでに楽曲ライブラリーを作成されている場合は、楽曲の再解析が必要になる場合があります。

### 1 Serato DJソフトウェア画面の [Files] キーをクリックして [Files] パネルを開く

お使いのコンピューターおよびコンピューターに接続されている周辺機器の中身が [Files] パネルに表示されます。

### 2 [Files] パネル内でライブラリーに加えたい楽曲が含まれているフォルダーをクリックして選択する

### 3 Serato DJソフトウェアの画面上で、選択したフォルダーを crates パネルにドラッグ & ドロップする

crate が作成され、ライブラリーに楽曲が追加されます。



b  
a [Files] パネル  
b crates パネル

2 ロータリーセレクターを押して、コンピューター画面のライブラリーにカーソルを移動させ、ロータリーセレクターを回して、トラックを選ぶ



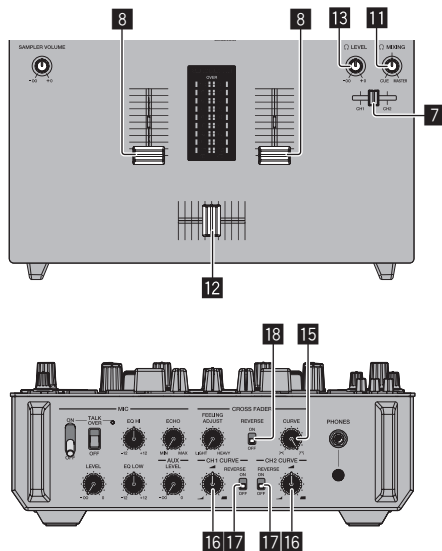
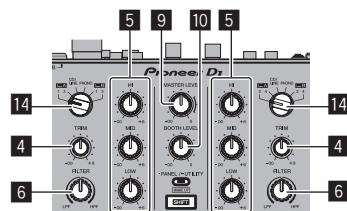
b  
a ライブラリー  
b crates パネル

### 3 [LOAD] ボタンを押して、選んでいるトラックをデッキにロードする

## トラックを再生して音声を出力する

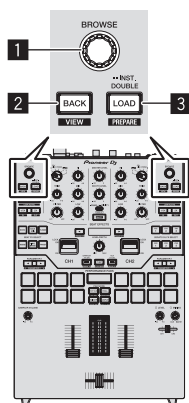
以下では、チャンネル 1 の音声を出力する方法を例にして説明します。

- [MASTER 1] 端子および [MASTER 2] 端子に接続している機器 (パワーアンプ、パワードスピーカーなど) のボリュームを適切に設定してください。ボリュームを上げすぎると大音量で音声が出力されますのでご注意ください。



## トラックをロードして再生する

以下では、デッキ [1] にトラックをロードする方法を例にして説明します。



### 1 ロータリーセレクター

### 2 BACK ボタン

### 3 LOAD ボタン

1 本機の [BACK] ボタンを押して、コンピューター画面の crates パネルにカーソルを移動させ、ロータリーセレクターを回して、crate などを選ぶ

### 4 TRIM ツマミ

### 5 ISO (HI、MID、LOW) ツマミ

### 6 FILTER ツマミ

### 7 ヘッドホン CUE フェーダー

### 8 チャンネルフェーダー



- 9 MASTER LEVEL ツマミ
- 10 BOOTH MONITOR LEVEL ツマミ
- 11 HEADPHONES MIX ツマミ
- 12 クロスフェーダー
- 13 HEADPHONES LEVEL ツマミ
- 14 INPUT SELECT スイッチ
- 15 CROSS FADER CURVE 調整ツマミ
- 16 CH FADER CURVE 調整ツマミ
- 17 CH FADER REVERSE スイッチ
- 18 CROSS FADER REVERSE スイッチ

1 以下のように、ツマミなどの位置を設定してください。

ツマミなどの名称	位置
MASTER LEVEL ツマミ	左に回しきった位置
TRIM ツマミ	左に回しきった位置
ISO (HI、MID、LOW) ツマミ	中心位置
FILTER ツマミ	中心位置
チャンネルフェーダー	手前側の位置
クロスフェーダー	[CH1] 側の位置
INPUT SELECT スイッチ	接続している [PC] の位置

2 Serato DJ の画面上の再生ボタンを押してトラックを再生する

3 チャンネルフェーダーを奥側に動かす

4 [TRIM] ツマミを回す

チャンネルレベルインジケータのオレンジ色のインジケータがピークレベルで点灯するように [TRIM] を調整してください。

5 [MASTER LEVEL] ツマミを回して、スピーカーの音声レベルを調整する

[MASTER 1] 端子および [MASTER 2] 端子から出力される音声レベルを適切な音量に調整します。

## ヘッドホンで音声をモニターする

以下のように、ツマミなどの位置を設定してください。

ツマミなどの名称	位置
HEADPHONES MIX ツマミ	左に回しきった位置
HEADPHONES LEVEL ツマミ	左に回しきった位置

1 ヘッドホン CUE フェーダーをモニターしたい CH 側に動かす

2 [HEADPHONES LEVEL] ツマミを回す

ヘッドホンから出力される音声レベルを適切な音量に調整します。



### メモ

本機と Serato DJ ソフトウェアは、個性的な DJ プレイを可能にする多くの機能が搭載されています。それぞれの機能について、Serato DJ のソフトウェアマニュアルをご覧ください。

- Serato DJ のソフトウェアマニュアルは、「Serato.com」からダウンロードできます。詳細については、「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5) をご覧ください。

## システムを終了する

1 Serato DJ を終了する

ソフトウェアを閉じると、終了の確認のための画面がコンピューター上に表示されます。[Yes] をクリックして終了します。

2 本機の背面部にある [STANDBY/ON] スイッチを押して、本機の電源をスタンバイにする

3 USB ケーブルをコンピューターから抜く

# 操作する（応用編）

これ以降の操作説明の記載では、Serato DJのソフトウェアマニュアルで説明されていない、本機とSerato DJを組み合わせたときの特有な機能について説明しています。

## パフォーマンスパッドを使う

それぞれの機能はパッドモードボタン ([HOT CUE] モードボタン、[ROLL] モードボタン、[SLICER] モードボタン、[SAMPLER] モードボタン) で切り換えます。

## ホットキューを使う

ホットキューを設定した位置から瞬時に再生できます。

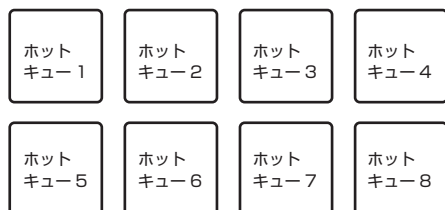
- ホットキューポイントは1トラックにつき8か所まで設定および保存できます。

### 1 [HOT CUE] モードボタンを押す

ホットキューモードに切り換わります。

### 2 再生中または一時停止中にパフォーマンスパッドを押して、ホットキューポイントを設定する

各ホットキューポイントは、以下のようにパフォーマンスパッドの各パッドに割り当てられます。



### 3 ホットキューポイントが設定されたパフォーマンスパッドを押す

ホットキューポイントから再生が始まります。

- [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、設定されたホットキューポイントを消去できます。

## ロールを使う

パフォーマンスパッドを押すとパッドに割り当てられた拍数のループが設定され、パッドを押し続けているあいだループ再生を継続します。

ループロール再生中、バックグラウンドで元のリズムを保ったまま通常の再生を続けます。ループロール再生を解除すると、解除するまでに経過した位置から再生を再開します。

### 1 [ROLL] モードボタンを押す

ロールモードに切り換わります。

### 2 [PARAMETER◀] ボタンまたは [PARAMETER▶] ボタンを押す

ボタンを押すたびに、パフォーマンスパッドに割り当てられるループロールの拍が切り換わります。

以下の4通りの設定ができます。

- ① 1/32 から 4 拍
- ② 1/16 から 8 拍
- ③ 1/8 から 16 拍
- ④ 1/4 から 32 拍

たとえば、「1/16 から 8 拍」の設定では、パッドの設定値は以下のようになります。



コンピューター画面にはループロールの設定されている拍の範囲が表示されます。



### 3 パフォーマンスパッドを押し続ける

押されたパッドに割り当てられた拍数で、ループロール再生します。ループロール再生中もバックグラウンドで再生を続けます。

- ループロール再生中に [LOOP 1/2X] ボタンまたは [LOOP 2X] ボタンを押して再生中のループロール音の拍数を変えることができます。

### 4 パフォーマンスパッドから指を放す

ループロール再生が解除され、バックグラウンドで進んだ位置から再生を開始します。

## スライサーを使う

指定した範囲を8分割し、分割したそれぞれの区間をパフォーマンスパッドの各パッドに割り当てます。パフォーマンスパッドの1つを押している間、パッドに割り当てられた区間の音声をループ再生します。パッドに割り当てられた音声のループ再生中は、バックグラウンドで元のリズムを保ったまま再生を続けます。パッドを放してループ再生が終わると、それまでに経過した位置から再生を再開します。

- スライサー機能はビートグリッドが設定されていないトラックではお使いいただけません。ビートグリッドの設定方法の詳細については、Serato DJのソフトウェアマニュアルをご覧ください。  
➔ 「Serato DJのソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)

### 1 [SLICER] モードボタンを押す

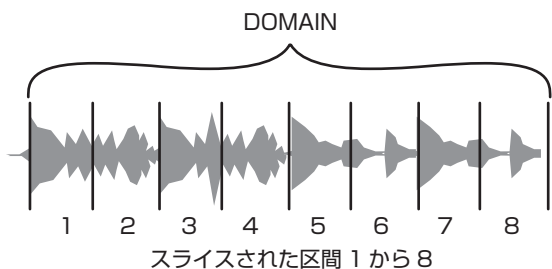
スライサーモードに切り換わります。

- [SHIFT] ボタンを押しながら [SLICER] モードボタンを押すと、スライサーモードに切りかわります。  
➔ 「スライサーモードとスライサーモードについて」(p.17)

### 2 [SHIFT] ボタンを押しながら、[PARAMETER◀] ボタンまたは [PARAMETER▶] ボタンを押す

スライサーの「DOMAIN」を設定します。[SHIFT] ボタンを押しながら、ボタンを押すたびに、DOMAINの設定値が切り換わります。「DOMAIN」は2拍、4拍、8拍、16拍、32拍、64拍の6通りの設定ができます。

「DOMAIN」で設定した範囲を8分割した、それぞれのスライスされた区間は、以下のようにパフォーマンスパッドの各パッドに割り当てられます。



### 3 [PARAMETER◀] ボタンまたは [PARAMETER▶] ボタンを押す

スライサーの「QUANTIZATION」を設定します。ボタンを押すたびに、QUANTIZATION の設定値が切り換わります。「QUANTIZATION」は 1/8、1/4、1/2、1 の 4 通りの設定ができます。

「QUANTIZATION」の設定値によって、パッドを押している間のループ再生の長さを変更できます。たとえば、「QUANTIZATION」の設定が「1」のときはパッドに割り当てられた区間全体をループ再生し、「QUANTIZATION」の設定が「1/2」のときはパッドに割り当てられた区間の先頭から 1/2 の長さだけをループ再生します。

### 4 パフォーマンスパッドを押し続ける

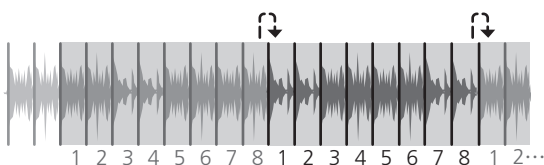
パッドを押し続けている間、ループ再生を続けます。

- ループ再生の長さは「QUANTIZATION」の設定により異なります。
- パッドから手を放すと、バックグラウンドで再生している位置に戻ります。

### ❖ スライサーモードとスライサーループモードについて

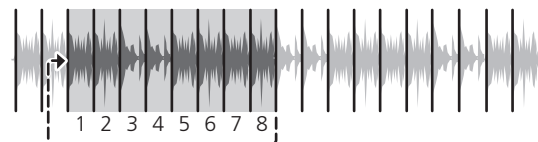
#### スライサーモード

再生位置が 8 分割された範囲の最後まで進むと、画面上の範囲が次の 8 分割表示に切り換わり、分割されたそれぞれの区間は新たに各パッドへ割り当てられます。



#### スライサーループモード

再生位置が 8 分割された範囲の最後まで進むと、再生位置が 8 分割された範囲の最初に戻ります。



## サンプラーを使う

サンプラー (SP-6) のサンプラーズロットにロードされたトラックを、パフォーマンスパッドで再生できます。

### 1 [PANEL SELECT] ボタンを押して、コンピューター画面上に [SP-6] パネルを開く

### 2 [SAMPLER] モードボタンを押す

サンプラーモードに切り換わります。

### 3 [PARAMETER◀] ボタンまたは [PARAMETER▶] ボタンを押す

サンプラー (SP-6) のバンクを切り換えます。サンプラーは A、B、C、D の 4 つのバンクがあり、それぞれのバンクには 6 つのロットがあります。

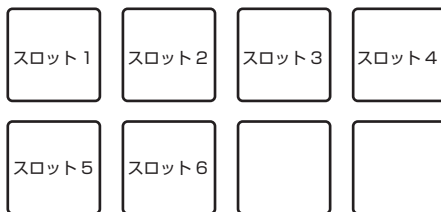
### 4 コンピューター画面のマウス操作でトラックをドラッグ & ドロップし、[SP-6] パネルの各スロットに曲をロードする

サンプラーの設定とロードした楽曲が保存されます。

### 5 パフォーマンスパッドを押す

押したパッドに割り当てられたスロットの音声を再生します。

- Serato DJ のサンプラーのモードによって再生の仕方が変わります。詳しくは Serato DJ のソフトウェアマニュアルを参照してください。
- ☞ 「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)



- [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、再生中のスロットの音声を停止します。

## キューループを使う

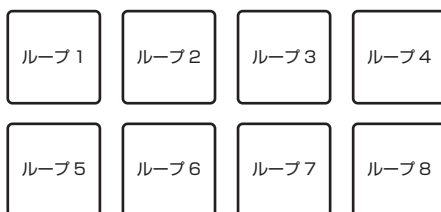
### 1 [SHIFT] ボタンを押しながら、[HOT CUE] モードボタンを押す

キューループモードに切り換わります。

### 2 再生中にパフォーマンスパッドを押す

ループインポイントが、ホットキューズロットへ設定されて、ループ再生が開始されます。

- このときループの長さは、オートループの拍数設定が適用されます。ループインポイントは、以下のようにパフォーマンスパッドの各パッドに割り当てられます。



- キューループでは、ホットキューポイントがループインポイントとして利用されます。すでに、ホットキューポイントが設定されているパフォーマンスパッドが押されると、そのホットキューポイントからループ再生が開始されます。

### 3 ループ再生中に [PARAMETER◀] ボタンを押す

ループ再生の長さを半分にします。

[LOOP 1/2X] ボタンを押しても、同じ効果が得られます。

### 4 ループ再生中に [PARAMETER▶] ボタンを押す

ループ再生の長さを 2 倍にします。

[LOOP 2X] ボタンを押しても、同じ効果が得られます。

### 5 ループ再生中に [SHIFT] ボタンを押しながら、

[LOOP 1/2X] ボタンまたは [LOOP 2X] ボタンを押す

ループの長さはそのまま、ループが移動します (ループシフト)。

## 6 [SHIFT] ボタンを押しながら、同じパフォーマンスパッドを押す

設定されているループインポイントに戻り、ループ再生を続けます。

## 7 同じパフォーマンスパッドをもう一度押す

ループ再生が解除されます。

## セーブドループを使う

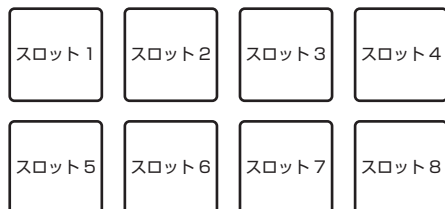
Serato DJ のループスロットにループを保存したり、保存したループを呼び出します。

### 1 [SHIFT] ボタンを押しながら、[ROLL] モードボタンを押す

セーブドループモードに切り換わります。

### 2 ループ再生中にパフォーマンスパッドを押す

ループが Serato DJ のループスロットに割り当てられます。



### 3 [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押す

ループの先頭に戻って再生を続けます。

### 4 同じパフォーマンスパッドをもう一度押す

ループ再生が解除されます。

### 5 ループ再生中に [PARAMETER◀] ボタンを押す

ループ再生の長さを半分にします。

### 6 ループ再生中に [PARAMETER▶] ボタンを押す

ループ再生の長さを 2 倍にします。

### 7 ループ再生中に [SHIFT] ボタンを押しながら、[LOOP 1/2X] ボタンまたは [LOOP 2X] ボタンを押す

ループの長さはそのままで、ループが移動します (ループシフト)。

- ループシフトすると、呼び出したループの長さを変えたりすれば、ループの設定が上書き保存されます。

## サンプラーロールを使う

デッキにロードされているトラックの BPM の拍タイミングに連動して、サンプル音を繰り返す機能です。

- 初期値は 1/4 拍です。
- サンプラーロール機能は、コンピュータ画面上の [SP-6] パネルでトリガーモードを選んでご使用ください。その他の再生モードでは正しく動作しません。

### 1 [PANEL SELECT] ボタンを押して、コンピュータ画面上に [SP-6] パネルを開く

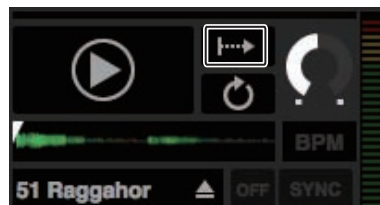
### 2 [SHIFT] ボタンを押しながら、[SAMPLER] モードボタンを押す

サンプラーロールモードに切り換わります。

### 3 コンピュータ画面のマウス操作でトラックをドラッグ & ドロップし、[SP-6] パネルの各スロットに曲をロードする

サンプラーの設定とロードした楽曲が保存されます。

## 4 マウスを操作して、コンピュータ画面上のサンブラースロットの再生モードをトリガーモードに設定する



▶ : トリガーモード

◀ : ホールドモード

◻ : オン/オフモード

- サンブラースロットの再生モードの詳細については、Serato DJ のソフトウェアマニュアルをご覧ください。
  - 「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)

## 5 [PARAMETER◀] ボタンまたは [PARAMETER▶] ボタンを押して、リピートする拍を選択する

[PARAMETER◀] ボタンまたは [PARAMETER▶] ボタンを押すたびに、拍が変わります。

1/32 ↔ 1/16 ↔ 1/8 ↔ 1/4 ↔ 1/2 ↔ 1

## 6 再生中にパフォーマンスパッドを押し続ける

サンブラースロットの再生を開始します。パッドを押し続けている間、選択された拍のタイミングで、スタート位置に繰り返し戻って再生を続けます。

- サンプラーロール機能では、複数のサンブラースロットを同時にリピート再生できます。

## 7 パフォーマンスパッドから指を放す

サンブラースロットの再生が通常に戻ります。

- [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、再生中のスロットを停止します。

## ユーザーモードを使う

ユーザーモードは、Serato DJ の MIDI アサインモードと組み合わせることで、本機のパフォーマンスパッドに好みの Serato DJ の機能をアサインするための機能です。

- Serato DJ の MIDI アサインモードに関しては Serato DJ のマニュアルも合わせてご覧ください。
  - 「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)

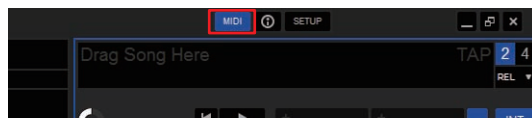
### 1 [SHIFT] ボタンを押しながらパッドモードボタンを 2 回連続で押す

本機をユーザーモードに切り換えます。

- パッドモードボタンは、ボタンごとにユーザーモードが設定できます。どのユーザーモードも機能は同じです。
  - [HOT CUE] ボタン：ユーザーモード 1
  - [ROLL] ボタン：ユーザーモード 2
  - [SLICER] ボタン：ユーザーモード 3
  - [SAMPLER] ボタン：ユーザーモード 4

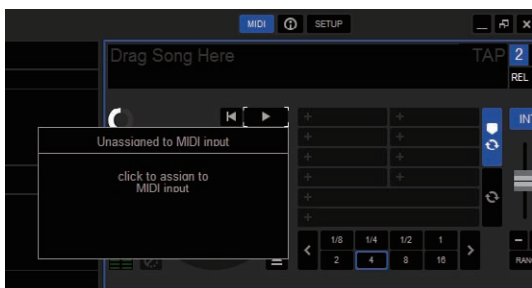
### 2 Serato DJ 画面右上の [MIDI] ボタンをクリックする

Serato DJ を MIDI アサインモードに切り換えます。



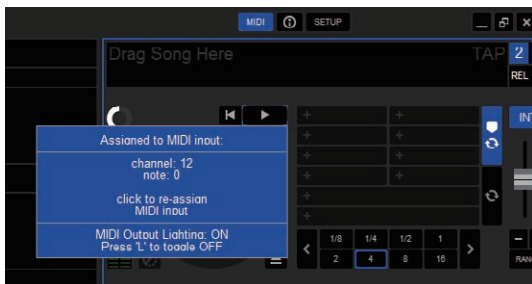
### 3 本機のパッドにアサインしたい機能をマウスでクリックする

下図は [▶](PLAY) ボタンをアサインするときの画面例です。



#### 4 機能をアサインしたいパッドを押す

下図のような画面が表示されればアサイン完了です。



#### 5 Serato DJ 画面右上の [MIDI] ボタンをクリックする

Serato DJ の MIDI アサインモードを終了します。設定が完了したあとは、本機をユーザーモードに切り換えるとパッドにアサインされた Serato DJ の機能を使うことができます。

## FX TRIGGER モードを使う

FX TRIGGER モードを使うと、本機をコンピューターに接続していないときでも、パフォーマンスパッドを使って BEAT FX をかけることができます。それぞれのパフォーマンスパッドにあらかじめパラメーターの値が設定されていますので、パッドを押すだけでエフェクトをかけることができます。

- FX TRIGGER モードは、BEAT FX を選択しているときだけ有効です。

#### 1 [INPUT SELECT] スイッチを [CD/LINE] または [PHONO] に切り換える

#### 2 パフォーマンスパッドを押す

パッドを押している間だけ、パッドに割り当てられた拍数の BEAT FX がかかり続けます。

PAD1 1/32 拍	PAD2 1/16 拍	PAD3 1/8 拍	PAD4 1/4 拍
PAD5 1/2 拍	PAD6 3/4 拍	PAD7 1 拍	PAD8 2 拍

- 上図は [ECHO] が選択されているときの例です。

#### 3 パフォーマンスパッドから指を放す

BEAT FX の効果が停止します。

## フェーダースタート機能を使う

フェーダースタート機能を使うには、あらかじめ設定ユーティリティの [PREFERENCE] タブ内の [フェーダースタートの動作オプション] のチェックボックスにチェックをつけておく必要があります。設定ユーティリティについては「設定ユーティリティで本機の設定を変更する」(p.34)の項目を参照してください。

## チャンネルフェーダースタート機能を使う

### 1 キューを設定する

キューポイントの設定方法は SeratoDJ ソフトウェアマニュアル「TemporaryCue」の項目を参照してください。

- ☞ 「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)
- 一時停止中に、[SHIFT] ボタンを押しながらチャンネルフェーダーを奥側から一番手前の位置にしたときも、キューを設定することができます。

### 2 [SHIFT] ボタンを押しながら、チャンネルフェーダーを一番手前の位置から奥側に動かす

設定したキューポイントからトラックの再生を始めます。

- 再生中に [SHIFT] ボタンを押しながら、チャンネルフェーダーの位置を一番手前に戻すと、設定されているキューポイントに瞬時に戻り、一時停止状態になります (バックキュー)。
- キューが設定されていないときはトラックの先頭から再生を始めます。
- 設定ユーティリティの [PREFERENCE] タブ内で、チャンネルフェーダースタートを開始すると同時に SYNC する設定に変更することもできます。☞ 「各種設定を変更する」(p.35)
- キュー待機中に、[SHIFT] ボタンを押しながらチャンネルフェーダーを奥側から一番手前の位置にしたときは、設定したキューポイントからトラックの再生を始めます。

## クロスフェーダースタート機能を使う

### 1 キューを設定する

キューポイントの設定方法は SeratoDJ ソフトウェアマニュアル「TemporaryCue」の項目を参照してください。

- ☞ 「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)
- 一時停止中に、[SHIFT] ボタンを押しながらクロスフェーダーを左端または右端の位置にしたときも、キューを設定することができます。

### 2 クロスフェーダーを動かして、左端または右端の位置にする

フェーダースタートさせたいチャンネルが設定されている側とは反対側の端に設定します。

### 3 [SHIFT] ボタンを押しながら、クロスフェーダーを左端または右端の位置から逆側に動かす

設定したキューポイントからトラックの再生を始めます。

- 再生中に [SHIFT] ボタンを押しながら、クロスフェーダーの位置を元の位置に戻すと、設定されているキューポイントに瞬時に戻り、一時停止状態になります (バックキュー)。
- キューが設定されていないときはトラックの先頭から再生を始めます。
- キュー待機中に、[SHIFT] ボタンを押しながらクロスフェーダーを左端から右端 (または右端から左端) の位置にしたときは、設定したキューポイントからトラックの再生を始めます。

## 曲を解析する

本機の [LOAD] ボタンを押してデッキに曲をロードすると曲の解析が実行されますが、解析が終了するまで BPM や波形表示に時間がかかる場合があります。

Serato DJ ソフトウェアをオフラインプレーヤーとして使用すると、事前に曲を解析することができます。解析の終了している曲は、デッキに曲をロードしたあとすぐに BPM や波形が表示されるようになります。

Serato DJ でのオフラインプレーヤーや曲の解析方法についての詳細は、Serato DJ のソフトウェアマニュアルをご覧ください。

- ☞ 「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)
- 楽曲の数によっては、解析に時間がかかる場合があります。

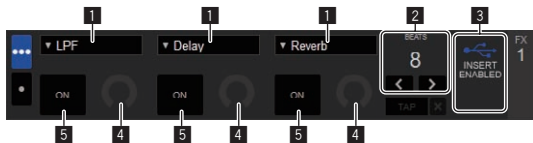


## エフェクトを使う

Serato DJにはFX1とFX2の2つのエフェクトユニットがあります。これらのエフェクトはCH1、CH2、SAMPLERおよびAUXに適用することができます。ここでは、本機を操作してエフェクトユニットを操作する方法を説明します。

### Serato DJのエフェクトユニットの画面表示

エフェクトユニットあたり3つのエフェクトが存在し、各エフェクトには1つの調整可能なパラメーターがあります。

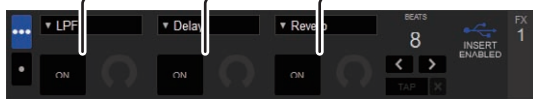
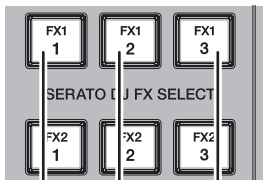


- 1 エフェクトの種類が表示されます。
- 2 エフェクト時間が表示されます。
- 3 Insert FXが有効であることが表示されます。
- 4 エフェクトパラメーターの状態が表示されます。
- 5 エフェクトのオン/オフが表示されます。

## Serato DJ FX を操作する

### 1 [SERATO DJ FX SELECT] ボタンを押してエフェクトの種類を選ぶ

FX1 1、FX1 2、FX1 3がFX1ユニットの各エフェクトに対応します。また、FX2 1、FX2 2、FX2 3がFX2ユニットの各エフェクトに対応します。



- [SERATO DJ FX SELECT] ボタンを押しながらロータリーセレクターを回すと各ボタンに割り当てるエフェクトを変更できます。
- エフェクトはいずれか1種類だけ選択することができます。

### 2 エフェクトレバーを倒してエフェクトをオンにする

[CH1] エフェクトレバーを倒すと、CH1への入力音にエフェクトがかかります。

[CH2] エフェクトレバーを倒すと、CH2への入力音にエフェクトがかかります。

[SAMPLER FX ON] ボタンを押すと、サンプラー音にエフェクトがかかります。

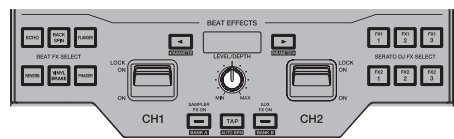
[AUX FX ON] ボタンを押すと、AUXへの入力音にエフェクトがかかります。



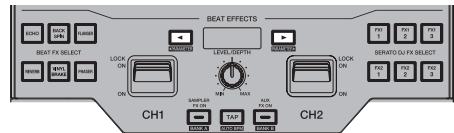
- エフェクトがオンされているときは、エフェクトレバー、[SAMPLER FX ON] ボタン、または [AUX FX ON] ボタンが高速で点滅します。

### 3 [LEVEL/DEPTH] ツマミを操作して、エフェクトのパラメーターを調整する

全てのエフェクトのパラメータが同時に調整されます。



### 4 [BEAT <, >] ボタンを押して、エフェクト時間を調整する



- エフェクト音はモニターできません。
- エフェクト時間の基準となるBPM値を、[TAP] ボタンをたたく間隔から設定することもできます。
  - ➔ 「エフェクトのテンポモードを切り換える」(p.20)

## エフェクトのテンポモードを切り換える

Serato DJのエフェクトには、エフェクトのテンポを設定する方法として、「オートテンポモード」と「マニュアルテンポモード」の2つモードがあります。

- 初期状態はオートテンポモードに設定されています。

### ❖ オートテンポモード

トラックのBPM値がエフェクトのテンポの基準となります。

### ❖ マニュアルテンポモード

エフェクトの基準となるBPM値を、[TAP] ボタンを指でたたいた間隔から算出します。

### ❖ マニュアルテンポモードに切り換える

オートテンポモード中に、[TAP] ボタンを押します。

- マニュアルテンポモード中に、[SHIFT]+[TAP] ボタンを押すと、オートテンポモードへ切り換わります。

## Serato DJ FX 機能と本機の操作制限について

本機にコンピューターが2台接続されているときは、本機の操作に制限がかかりますのでご注意ください。

### 制限される操作

- [INPUT SELECT] スイッチで [CH1] と [CH2] がそれぞれ別のコンピューターを選択しているときは、AUXにSerato DJ FXのエフェクトはかかりません。
- [INPUT SELECT] スイッチで [CD/LINE] もしくは [PHONO] に切り換えたときは、切り換える前に選択していたSerato DJ FXが有効になります。

## 録音機能を使う

Serato DJには録音機能があり、ミックスした音を録音することができます。

詳しい録音方法は、Serato DJのソフトウェアマニュアルをご覧ください。

- ➔ 「Serato DJのソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)

### 1 [REC] パネルを開く

[PANEL SELECT] ボタンを押して、[REC] パネルを開きます。

### 2 [REC] をクリックして、録音を開始する

- [REC] を再びクリックすると、録音が停止されます。



### 3 録音結果を保存する

テキストフィールドにファイル名を入力し、[SAVE] ボタンをクリックします。

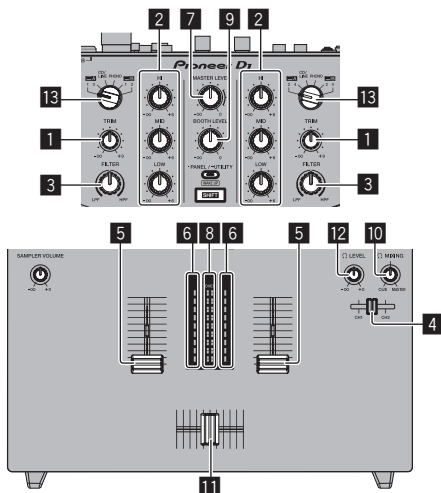
- Serato DJ の [SETUP] メニューの [DJ Preferences] タブを選択して表示される [RECORDING] 画面で、ファイル形式とビット深度を選択できます。
- 保存した録音ファイルは、「Recorded」という名前の Crates に保存されます。

## 外部入力を使う

本機は DJ プレーヤーやアナログプレーヤーなどを接続できる外部入力を 2 系統備えています。本機の 2 チャンネルミキサーはコンピューターを介さずに外部入力の音声をミックスできます。以下に示すミキサー機能はコンピューターと接続していても動作します。

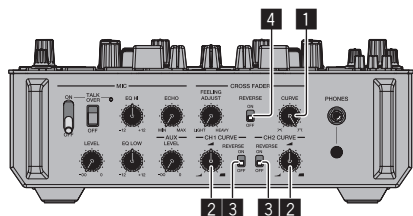
- 各項目の詳細については「入力端子に接続する」(p.11) および「各部の名前とはたらき」(p.6) を参照してください。
- フェーダースタート機能 ([SHIFT] ボタンを押しながら、チャンネルフェーダーもしくはクロスフェーダーを動かす) は、外部入力に対しては動作しません。
- Serato DJ ソフトウェアに対しての各ツマミなどの調整値と、外部入力に対しての各ツマミなどの調整値は異なります。

### ミキサー部



- 1 TRIM ツマミ
- 2 ISO (HI, MID, LOW) ツマミ
- 3 FILTER ツマミ
- 4 ヘッドホン CUE フェーダー
- 5 チャンネルフェーダー
- 6 チャンネルレベルインジケータ
- 7 MASTER LEVEL ツマミ
- 8 マスターレベルインジケータ
- 9 BOOTH MONITOR LEVEL ツマミ
- 10 HEADPHONES MIX ツマミ
- 11 クロスフェーダー
- 12 HEADPHONES LEVEL ツマミ
- 13 INPUT SELECT スイッチ

### 本体前面部



- 1 CROSS FADER CURVE 調整ツマミ
- 2 CH FADER CURVE 調整ツマミ
- 3 CH FADER REVERSE スイッチ
- 4 CROSS FADER REVERSE スイッチ

## マイクの音声をミックスする

- 1 [MIC] 端子にマイクを接続する
- 2 [ON, OFF] 切換スイッチを [ON] に設定する
  - [MIC TALK OVER] : インジケータが点滅します。
  - [TALKOVER OFF] : インジケータが点灯します。
- [MIC TALK OVER] に設定すると、マイクに -10 dB 以上の音声が入力されたとき [MIC] チャンネル以外の音声は 18 dB (初期設定値) 減衰します。
- [MIC TALK OVER] の音声減衰レベルはキューティリティーモードで変更できます。変更方法については、「キューティリティーモードで本機の設定を変更する」(p.33) をご覧ください。

### 3 [MIC LEVEL] ツマミを回す

[MIC] チャンネルの入力音声レベルを調整します。

- 右に回しすぎると大音量で音声が出力されますのでご注意ください。

### 4 マイクに音声を入力する

#### ❖ 音質を調整する

[MIC] チャンネルの [EQ (HI, LOW)] ツマミを回す

#### ❖ マイク音声にエコーをかける

[MIC ECHO] ツマミを回すと、マイクの音声にエコーをかけることができます。

## DJ プレーヤーなどの音声をミックスする

- 1 [CD/LINE] 端子に DJ プレーヤーなどのラインレベル出力機器を接続する
- 2 [INPUT SELECT] スイッチを [CD/LINE] に設定する
- 3 [TRIM] ツマミおよびチャンネルフェーダーを操作して、各デッキから出力される音声レベルを調整する
  - [ISO (HI, MID, LOW)] ツマミで音声を調整したり、[FILTER] ツマミで各チャンネルに対して、フィルターエフェクトをかけることができます。

## アナログプレーヤーなどの音声をミックスする

- 1 [PHONO] 端子にアナログプレーヤーなどのフォノレベル (MM カートリッジ用) の出力機器を接続する
- 2 [INPUT SELECT] スイッチを [PHONO] に設定する
- 3 [TRIM] ツマミおよびチャンネルフェーダーを操作して、各デッキから出力される音声レベルを調整する
  - [ISO (HI, MID, LOW)] ツマミで音声を調整したり、[FILTER] ツマミで各チャンネルに対して、フィルターエフェクトをかけることができます。

# エフェクトの種類

## FILTER の種類

[FILTER] ツマミで操作できるエフェクトの種類を変更することができます。コンピューターで設定ユーティリティを起動し、[FX BANK] タブ内の [FILTER] の項目でプルダウンメニューより操作したいエフェクトを選択してください。

➤ 「設定ユーティリティで本機の設定を変更する」(p.34)

エフェクト名	説明	[FILTER] ツマミ
DUB ECHO	元の音声より少し遅れた音を減衰させながら数回出力し反響効果を加えます。	左回し：中音域だけに反響効果を加えます。 右回し：高音域だけに反響効果を加えます。
FILTER	フィルターを通した音声を出力します。	左回し：ローパスフィルターのカットオフ周波数が徐々に下がります。 右回し：ハイパスフィルターのカットオフ周波数が徐々に上がります。
NOISE	本機内部で発生させたホワイトノイズをフィルターに通してからチャンネルの音声とミックスして出力します。 • [ISO (HI, MID, LOW)] ツマミを回して音質を調整できます。	左回し：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数が徐々に下がります。 右回し：ホワイトノイズを通すフィルターのカットオフ周波数が徐々に上がります。
PITCH	音声の音程を変化させます。	左回し：音程が下がります。 右回し：音程が上がります。
WIDE FILTER	フィルターを通した音声を出力します。 [FILTER] ツマミを左右に回しきると音声完全にカットされます。	左回し：ローパスフィルターのカットオフ周波数が徐々に下がります。 右回し：ハイパスフィルターのカットオフ周波数が徐々に上がります。

## BEAT FX の種類

[BEAT FX] ボタンで操作できるエフェクトの種類を変更することができます。コンピューターで設定ユーティリティを起動し、[FX BANK] タブ内の [BEAT EFFECTS] の項目でプルダウンメニューより操作したいエフェクトを選択してください。

➤ 「設定ユーティリティで本機の設定を変更する」(p.34)

### ❖ DELAY<sup>1)</sup>

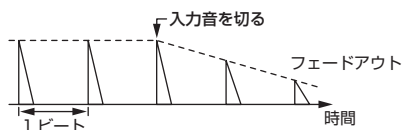
[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてディレイ音を 1 回出力します。  
1/2 ビートのディレイ音を重ねると 4 ビートが 8 ビートになります。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/32 ~ 4/1 のディレイタイムを設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	SWING 量を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とディレイ音のバランスを設定します。

### ❖ ECHO<sup>1)</sup>

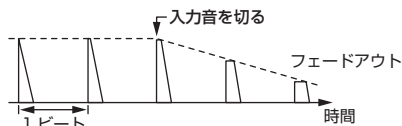
[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてディレイ音を減衰させながら数回出力します。  
1/1 ビートのエコー音では入力音を切ったあとも曲のテンポに合わせてディレイ音がフェードアウトします。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/32 ~ 4/1 のディレイタイムを設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	HPF のカットオフ周波数を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とエコー音のバランスとフィードバック量を設定します。

### ❖ SPIRAL<sup>1)</sup>

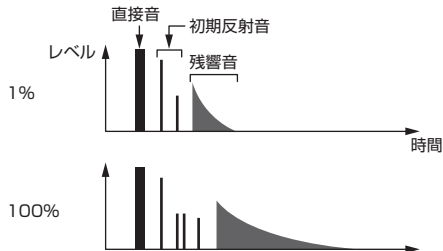
入力音に残響効果を加えます。  
ディレイタイムを変化させたとき、同時に音程も変化します。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して 1/8 ~ 16/1 のディレイタイムを設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	フィードバック量の最大値を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスと量的パラメーターを設定します。

### ❖ REVERB<sup>1)</sup>

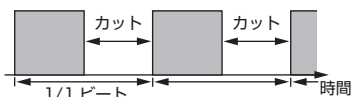
入力音に残響効果を加えます。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	残響効果の程度を 1 ~ 100 % の間で設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	フィルターのカットオフ周波数を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスを設定します。

### ❖ TRANS

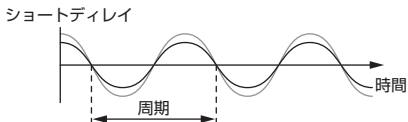
[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて音をカットします。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して $1/16 \sim 16/1$ のカット時間を設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	カットされる割合を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスを設定します。

### ❖ FLANGER

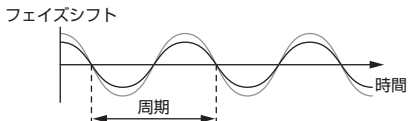
[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて 1 周期のフランジャー効果を作り出します。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して $1/4 \sim 64/1$ のエフェクト時間を設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	フィードバック量の最大値を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	右に回すほど効果が強調されます。左に回すきると原音だけ出力されます。

### ❖ PHASER

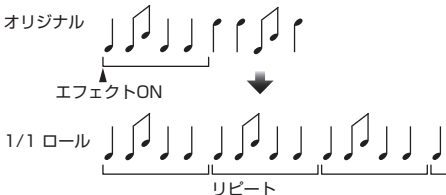
[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてフェイザー効果を変化します。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	フェイザー効果を移動させる周期を BPM の 1 拍の時間に対して $1/4 \sim 64/1$ の時間で設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	フィードバック量の最大値を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	右に回すほど効果が強調されます。左に回すきると原音だけ出力されます。

### ❖ ROLL

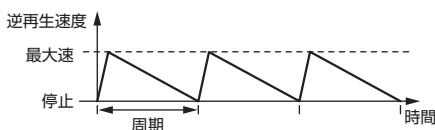
[ON/OFF] ボタンを押した時点の入力音を記録し、記録した音を [BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて繰り返し出力します。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	BPM の 1 拍の時間に対して $1/16 \sim 16/1$ のエフェクト時間を設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	ROLL 音のカットされる割合を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音と ROLL 音のバランスを設定します。

### ❖ BACK SPIN

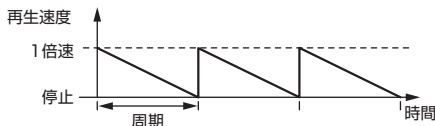
[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて入力音の再生速度が変化します。再生中の入力音を高速で逆再生させたときのような効果が得られます。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	入力音の再生速度が変化する周期を BPM の 1 拍の時間に対して $1/4 \sim 64/1$ で設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	BACK SPIN の速度を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスを設定します。

### ❖ VINYL BRAKE

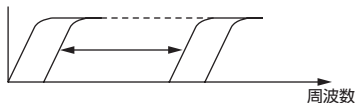
[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせて入力音の再生速度が変化します。入力音の再生速度を徐々に遅くし、最終的に停止するような効果が得られます。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	入力音の再生速度が変化する周期を BPM の 1 拍の時間に対して $1/4 \sim 64/1$ で設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	VINYL BRAKE の速度を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	原音とエフェクト音のバランスと、再生速度の変化量を設定します。

### ❖ HP FILTER

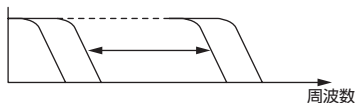
[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてハイパスフィルターのカットオフ周波数が増加します。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	カットオフ周波数を移動させる周期を BPM の 1 拍の時間に対して $1/4 \sim 64/1$ で設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	レゾナンスの最大値を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	右に回すほど効果が強調されます。

### ❖ LP FILTER

[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した拍の倍率に合わせてローパスフィルターのカットオフ周波数が増加します。



BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	カットオフ周波数を移動させる周期を BPM の 1 拍の時間に対して $1/4 \sim 64/1$ で設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	レゾナンスの最大値を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	右に回すほど効果が強調されます。

### ❖ FADER SYNTH (SINE/SAW/SQUARE)

[BEAT ◀, ▶] ボタンで設定した基底発振周波数の音源として SYNTH 音を出力します。

BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 1)	基底発振周波数を $-3 \sim +3$ の 7 段階で設定します。
SHIFT+BEAT ◀, ▶ ボタン (パラメーター 2)	エフェクト音にかかるエコーの音量を設定します。
LEVEL/DEPTH ツマミ (パラメーター 3)	エフェクト音の音量を設定します。
チャンネルフェイダー (パラメーター 4)	音を階段状に変化させます。

□ エフェクト音はモニターできません。

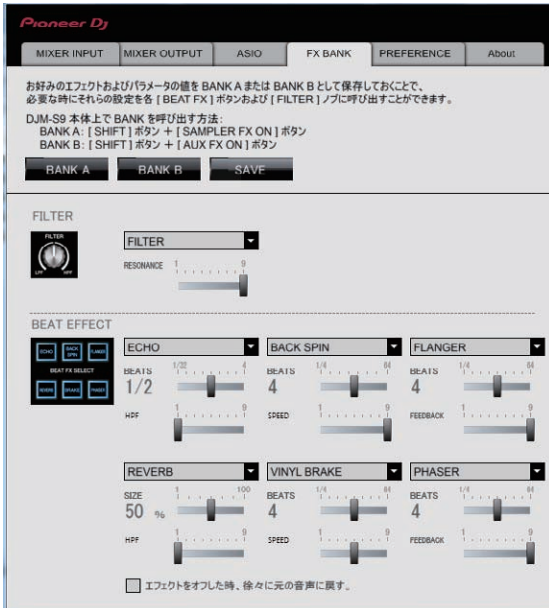
## FX BANK 機能を使う

本機は内蔵エフェクト選択用のボタンを6個搭載しており、それぞれのボタンに好きな内蔵エフェクトを設定できます。一方、Serato エフェクト選択用のボタンも6個搭載しており、それぞれのボタンに好きな Serato エフェクトを設定できます。設定した各エフェクトを、FX BANK として保存したり、ロードしたりすることができます。

### 内蔵エフェクトの FX BANK 機能

#### ❖ FX BANK を設定する

設定ユーティリティの BANK A (または BANK B) で、BANK A (または、BANK B) のエフェクト内容を変更することができます。



#### ❖ エフェクトの種類を変更する

下記の①②いずれかの方法で各 [BEAT FX SELECT] ボタンにアサインするエフェクトの種類を変更することができます。

- ① コンピューターで設定ユーティリティのプルダウンメニューを使って変更する
- ② DJM-S9 本体で [BEAT FX SELECT] ボタンを押しながら [BROWSE] ツマミを回す

#### ❖ FX BANK を保存する

設定ユーティリティの BANK A (または BANK B) を操作するか、本機のボタンやツマミを使ってエフェクトの種類やパラメーターを変更します。そのあと、[SAVE] をクリックすることで、BANK として登録することができます。

#### ❖ FX BANK をロードする

本機のボタンを以下の組み合わせで押しとエフェクト BANK をロードすることができます。

- [SHIFT] ボタン + [SAMPLER FX ON] ボタン：  
⇒ エフェクト BANK A をロードします。
- [SHIFT] ボタン + [AUX FX ON] ボタン：  
⇒ エフェクト BANK B をロードします。

### Serato エフェクトの FX BANK 機能

#### ❖ FX BANK を設定する、保存する

Serato DJ の FX パネルで BANK A、BANK B のエフェクトを変更します。

- プルダウンメニューでエフェクトが選択できます。
- エフェクト選択後 [保存] ボタンを押し、保存先に [A] か [B] を選択した時点でコンピューターに設定が保存されます。詳細については、Serato DJ の取扱説明書をご覧ください。



#### ❖ FX BANK をロードする

Serato DJ の FX パネルで設定した、Serato DJ エフェクトセットを各ボタンにロードします。このとき、設定ユーティリティで設定した BEAT FX のエフェクトセットも同時にロードされます。本機のボタンを以下の組み合わせで押しとエフェクト BANK をロードすることができます。

- [SHIFT] ボタン + [SAMPLER FX ON] ボタン：  
⇒ エフェクト BANK A をロードします。
- [SHIFT] ボタン + [AUX FX ON] ボタン：  
⇒ エフェクト BANK B をロードします。

### FX BANK 機能と本機の操作制限について

本機にコンピューターが2台接続されているときは、本機の操作に制限がかかりますのでご注意ください。

#### 制限される操作

- FX BANK をロードすることはできません。
  - [BEAT FX SELECT] ボタンを押しながら [BROWSE] ツマミを回しても、エフェクトの種類の変更することはできません。
  - BEAT FX のエフェクトがデフォルト設定 ([BEAT FX SELECT] ボタンに印字されているエフェクト) に戻ります。
- ただし、以下どちらかの状態のときは上記の制限はかかりません。
- ① [INPUT SELECT] スイッチで [CH1] と [CH2] の両方で [USB-A] が選択されているとき
  - ② [INPUT SELECT] スイッチで [CH1] と [CH2] の両方で [USB-B] が選択されているとき

# DVS システムを使う

本機は、Serato DJ ソフトウェアとコントロールディスク<sup>1</sup>で、使い慣れたアナログプレーヤーや DJ プレーヤーで、デジタル音楽ファイルの操作が可能になります。

1 デジタル音楽ファイルを操作するのに必要な信号が収録された特殊な CD/レコードです。

## Serato DJ ソフトウェアをコントロールする前に

### 入力チャンネルについて



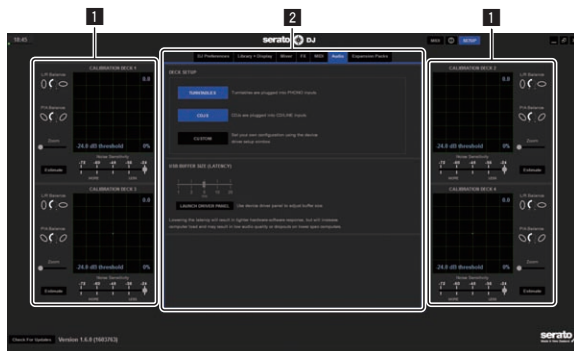
以下のように、ツマミなどの位置を設定してください。

ツマミなどの名称	位置
INPUT SELECT スイッチ	USB-A または USB-B
TRIM ツマミ	左に回しきった位置
ISO (HI, MID, LOW) ツマミ	中心位置

### Serato DJ の設定画面について

Serato DJ ソフトウェアと本機が接続されているときのコンピュータ画面 (SETUP 画面)

この画面は、ドライバソフトウェアをインストールしたあとに、コンピュータと本機を接続したときの SETUP 画面です。



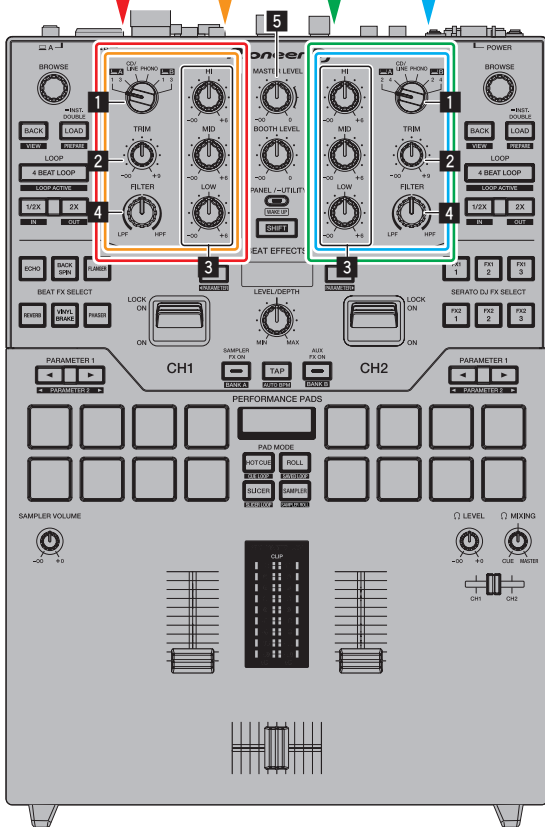
#### 1 CALIBRATION DECK

Serato DJ ソフトウェアは、コントロールディスクからアナログの信号を算出し、デジタルオーディオファイルの信号処理をします。使う環境ごとに、異なる信号レベルや機器の状態を算出し、コントロール信号の読み取りに最適な設定ができます。

- CALIBRATION DECK が表示されていないときは、[Expansion Packs] タブをクリックし、リストの中から [Vinyl/CDJ Control] を選択し、[Enable Vinyl/CDJ control] チェックボックスにチェックを入れてください。

#### 2 ユーティリティ設定

システム全般にかかわる設定や、細かい動作設定などのユーティリティ設定ができます。



Serato DJ ソフトウェアの [DECK1] ~ [DECK4] で再生される音は、本機の各 CH に入力されます。

DECK と、各 CH に入力される音の組み合わせは固定されており、各組み合わせは、以下のとおりです。

### Serato DJ ソフトウェアの DECK と DJM-S9 の CH 対応表

Serato DJ ソフトウェアの DECK	DECK1	DECK2	DECK3	DECK4
DJM-S9 の CH	CH1	CH2	CH1	CH2



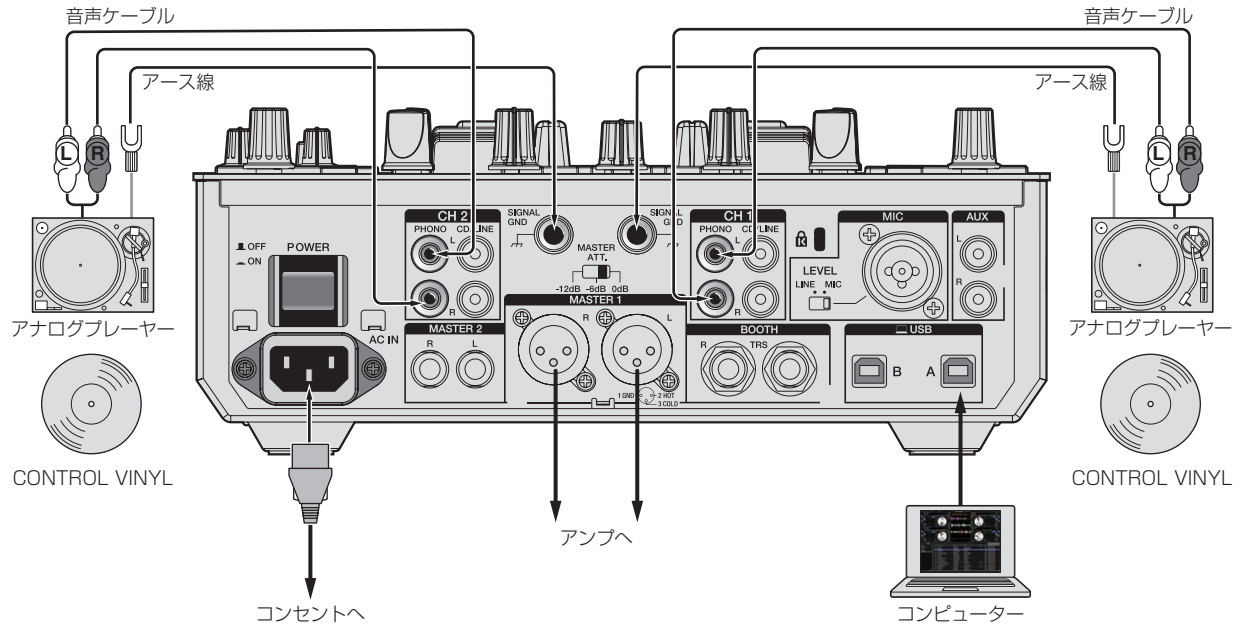
# Serato DJ ソフトウェアをコントロールする

ここでは、使う環境に合わせ 3 通りの接続を説明しています。

- アナログプレーヤーを使う場合は、26 ページにお進みください。
- DJ プレーヤーを使う場合は、27 ページにお進みください。
- アナログプレーヤーと DJ プレーヤーを同時に使う場合は、28 ページにお進みください。

## アナログプレーヤーを使う場合

ここでは、Serato DJ ソフトウェアの [DECK1] から [DECK4] を、アナログプレーヤーと接続して使う場合の説明をします。



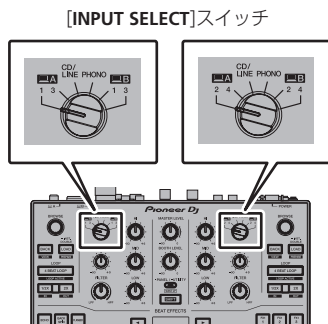
1 [DECK1] および [DECK3] をコントロールするアナログプレーヤーと [CH1] の [PHONO] 端子を、[DECK2] および [DECK4] をコントロールするアナログプレーヤーと [CH2] の [PHONO] 端子を、それぞれ接続する

2 それぞれのアナログプレーヤーのアース線を、本機の [SIGNAL GND] 端子と接続する

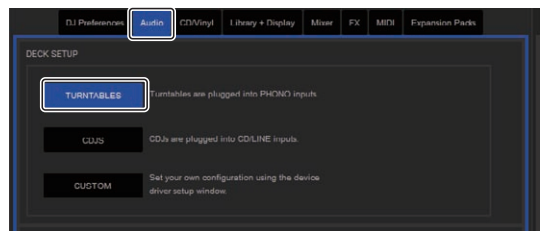
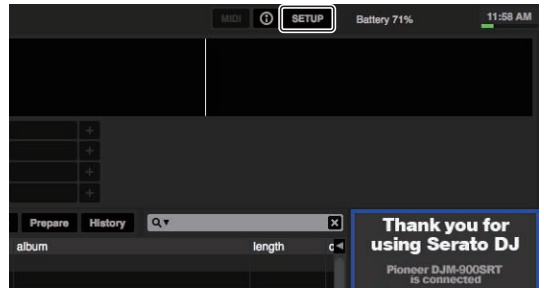
3 アナログプレーヤーに CONTROL VINYL をセットする

4 DJM-S9 の入力を切り換える

[CH1] と [CH2] の [INPUT SELECT] スイッチを、[ ] 側に切り換えてください。



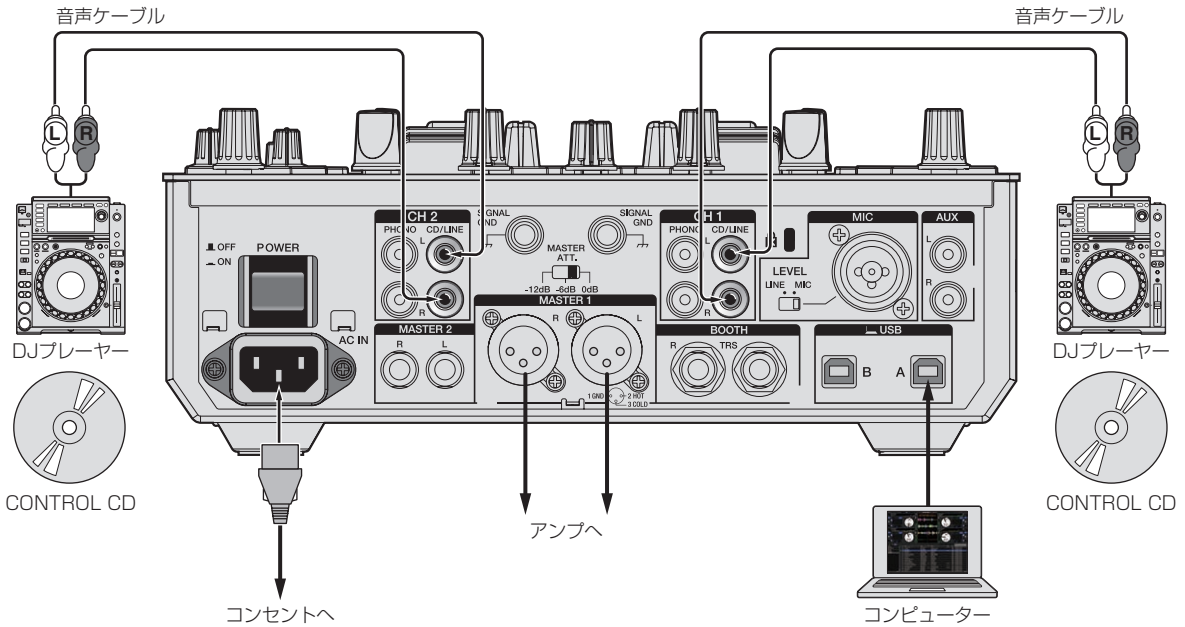
5 Serato DJ ソフトウェアの画面上的 [SETUP] を選択し、ユーティリティ設定の [Audio] タブ内にある [TURNTABLES] を選択する





## DJ プレーヤーを使う場合

ここでは、Serato DJソフトウェアの [DECK1] から [DECK4] を、DJ プレーヤーと接続して使う場合の説明をします。



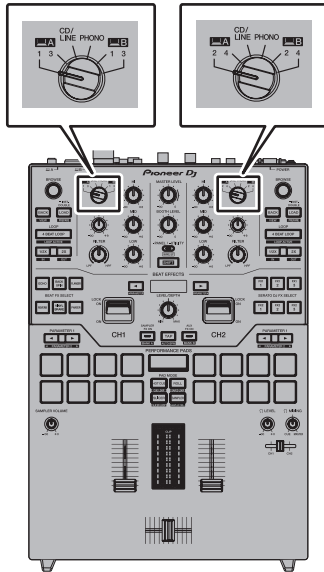
1 [DECK1] および [DECK3] をコントロールする DJ プレーヤーと [CH1] の [CD/LINE] 端子を、[DECK2] および [DECK4] をコントロールする DJ プレーヤーと [CH2] の [CD/LINE] 端子を、それぞれ接続する

2 DJ プレーヤーに CONTROL CD をセットする

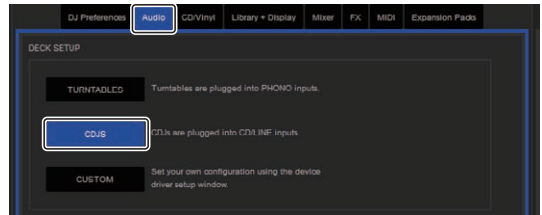
3 DJM-S9 の入力を切り換える

[CH1] と [CH2] の [INPUT SELECT] スイッチを、[ ] 側に切り換えてください。

[INPUT SELECT] スイッチ



4 Serato DJソフトウェアの画面上的 [SETUP] を選択し、ユーティリティ設定の [Audio] タブ内にある [CDJS] を選択する




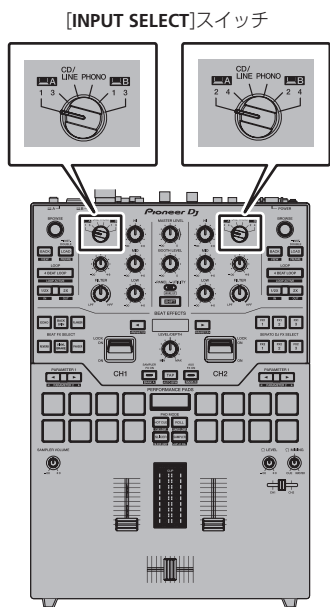
## アナログプレーヤーと DJ プレーヤーを同時に使う場合

ここでは、Serato DJソフトウェアの [DECK1] および [DECK3] をアナログプレーヤーと接続し、Serato DJソフトウェアの [DECK2] および [DECK4] を DJ プレーヤーと接続して使う場合の説明をします。

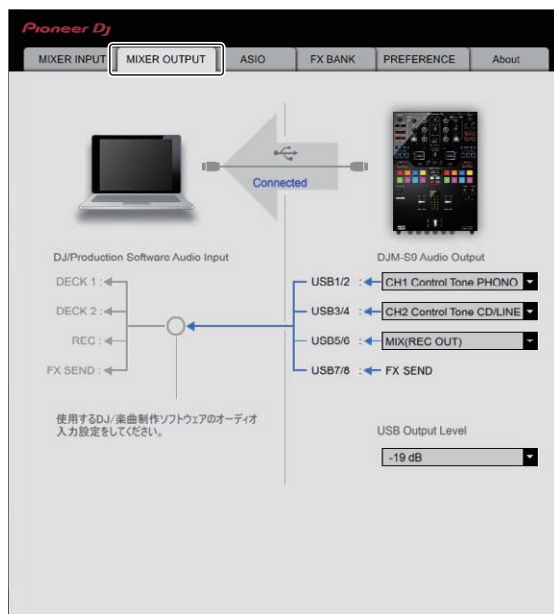
1 [DECK1] および [DECK3] をコントロールするアナログプレーヤーと [CH1] の [PHONO] 端子を、[DECK2] および [DECK4] をコントロールする DJ プレーヤーと [CH2] の [CD/LINE] 端子を、それぞれ接続する

2 DJM-S9 の入力を切り換える

[CH1] と [CH2] の [INPUT SELECT] スイッチを、[  ] 側に切り換えてください。

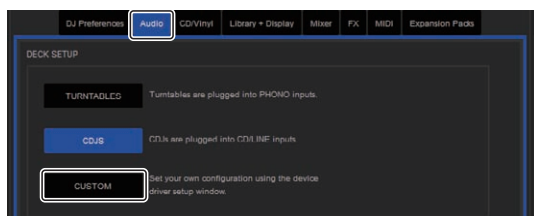


4 設定ユーティリティー内の [MIXER OUTPUT] タブを選択し、アナログプレーヤーを操作する CH1 は [CH1 Control Tone PHONO] を、DJ プレーヤーを操作する CH2 は [CH2 Control Tone CD/LINE] を選択する



3 Serato DJソフトウェアの画面上の [SETUP] を選択し、ユーティリティー設定の [Audio] タブ内にある [CUSTOM] を選択する

選択すると、設定ユーティリティーが表示されます。



## コントロール信号の確認

接続したプレーヤーの再生ボタンを押し、トラック 1 を再生する

[CALIBRATION DECK] に緑の輪が表示されます。一番内側の輪が、正円に近い状態になっていることを確認してください。



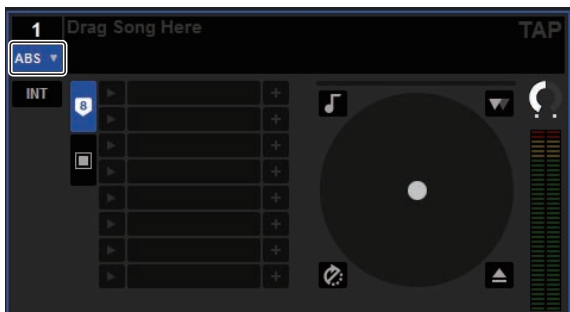
詳しくは、Serato DJ ソフトウェアマニュアルを確認してください。  
➔ 「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)

## 再生モードの選択

Serato DJ ソフトウェアは用途に合わせて、3 つの再生モードを用意しています。

デッキ部で、[ABS]、[REL] および [INT] に選択できます。ここでは、再生モードを [ABS] モードにする例を説明します。

デッキ部のタブで、[ABS] を選択する



各再生モードの説明は、Serato DJ ソフトウェアマニュアルを確認してください。

➔ 「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)

## 楽曲をインポートまたはロードする

### ❖ 楽曲をインポートする

ここでは、楽曲をインポートする代表的な操作方法について説明します。

- Serato DJ ソフトウェアでは、さまざまなインポート方法があります。詳細については、Serato DJ のソフトウェアマニュアルをご覧ください。
- ➔ 「Serato DJ のソフトウェアマニュアルをダウンロードする」(p.5)
- すでに Serato 社の DJ ソフトウェア (Scratch Live、ITCH、Serato DJ Intro) をお使いのお客様で、楽曲ライブラリーを作成されている場合は、以前作成した楽曲ライブラリーをそのまま使うことができます。

1 Serato DJ ソフトウェア画面の [Files] キーをクリックして [Files] パネルを開く

お使いのコンピューターおよびコンピューターに接続されている周辺機器の中身が [Files] パネルに表示されます。

2 [Files] パネル内でライブラリーに加えたい楽曲が含まれているフォルダーをクリックして選択する

3 Serato DJ ソフトウェアの画面上で、選択したフォルダーを crates パネルにドラッグ & ドロップする  
crate が作成され、ライブラリーに楽曲が追加されます。



- 1 [History] パネル
- 2 [Files] パネル

### ❖ 楽曲をロードする

1 [crates] パネルより、[crates] などをクリックして [Library] を開く

2 [Library] からトラックを選択し、[DECK1] にドラッグアンドドロップしてロードする

## 楽曲を再生する

ここでは、[DECK1] (CH1) の音声を出力する方法を例にして説明します。

- [MASTER 1] 端子および [MASTER 2] 端子に接続している機器 (パワーアンプ、パワードスピーカーなど) のボリュームを適切に設定してください。ボリュームを上げすぎると大音量で音声が出力されますのでご注意ください。

1 接続したプレーヤーの再生ボタンを押し、トラック 1 を再生する

Serato DJ ソフトウェアの楽曲が再生されます。

2 [TRIM] ツマミを回す

チャンネルレベルインジケーターのオレンジ色のインジケーターがピークレベルで点灯するように [TRIM] ツマミを回して調整してください。

3 チャンネルフェーダーを奥側に動かす

4 [MASTER LEVEL] ツマミを回して、スピーカーの音声レベルを調整する

[MASTER 1] 端子および [MASTER 2] 端子から出力される音声レベルを適切な音量に調整します。

## システムを終了する

1 [Serato DJ] を終了する

ソフトウェアを閉じると、終了の確認のための画面がコンピューター上に表示されます。[Yes] をクリックして終了します。

2 本機の背面部にある [POWER] ボタンを押して、電源をオフにする

3 USB ケーブルをコンピューターから抜く

# 設定を変更する

## クロスフェーダー部のクッションを交換する

安全にお使いいただくために、必ずお守りください。

本製品の交換をする場合には、お客様ご自身の責任において交換をされることとなりますのでご了承ください。

### 警告

- 必ず電源をオフにして作業してください。
- 作業が完了するまでは絶対に電源を入れないでください。
- 指定部以外は絶対に触らないでください。
- 付属の部品以外は絶対に使用しないでください。
- 取り外した部品を製品内部に落とさないようにご注意ください。
- 濡れた手で作業しないでください。
- 液体を近くに置いたまま作業をしないでください。
- 液体のかかるおそれがある場所で作業をしないでください。

### 注意

交換作業は下記に注意して行ってください。

- 平らで滑りにくい場所で作業してください。
- ほこりの多い場所などで作業しないでください。
- 取り外した部品は取り付けるまで保管してください。
- 小さな部品はお子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。
- 誤って飲み込んだ場合は、ただちに医師にご連絡ください。
- 部品を製品内部に落として取り出せなくなった場合は、電源を入れずに必ず電源プラグを抜いてから、修理をご依頼ください。

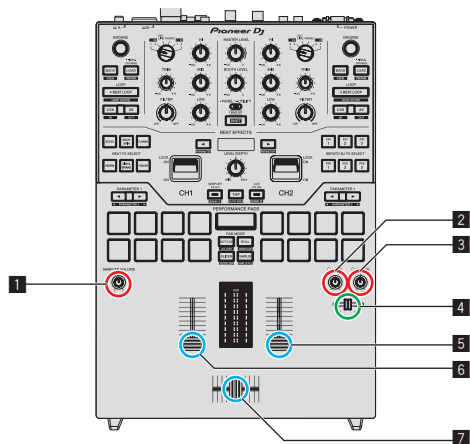
### 免責

- 交換作業はお客様のご判断・責任となりますので、本書記載事項を良く読み慎重に行なってください。
- 交換作業により生じた損害につきましては、当社は一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 交換時に発生した部品の紛失及び破損などは、保証期間内であっても有償購入となります。
- 交換作業が原因で、製品に不具合、破損、その他修理対応が必要な状況が生じた場合、保証期間内であっても有償修理となります。(破損の状況によっては修理不能となる場合がございます。)

### 1 本機の電源をオフにする

### 2 ツマミを取り外す

下図 7 か所のつまみを外してください。



1 ~ 3 ロータリーつまミ



4 フェーダーつまミ (小)



5 ~ 7 フェーダーつまミ (大)



- ロータリーつまミとフェーダーつまミ (小) は挿し込み式です。そのまま上に引き抜いてください。抜けにくい場合はすべりにくいものを巻きつけて抜いてください。
- フェーダーつまミ (大) は下記の部品で構成されています。

フェーダーつまミ (大) (指示線部)



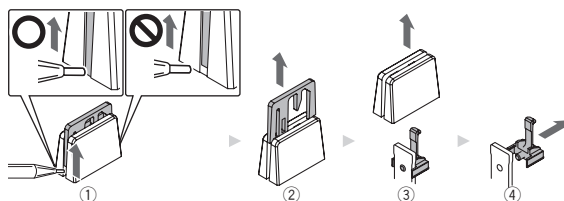
フェーダーつまミ (大) (つまミ部)



フェーダーつまミ (大) (ベース部)



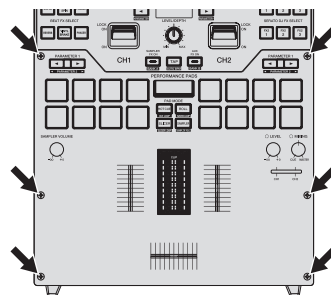
- フェーダーつまミ (大) の取り外し方は下図を参考にしてください。



- 指示線部の下端を先の細いものを持ち上げる  
— 指示線部の下端がつまミ部底辺まで伸びている側を持ち上げてください。
- 指示線部を上引き抜く
- つまミ部を上引き抜く
- ベース部を横引き抜く

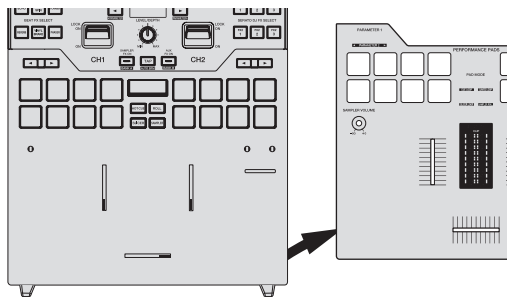
### 3 ドライバーを使いネジを外す

下図 6 か所のネジを外してください。



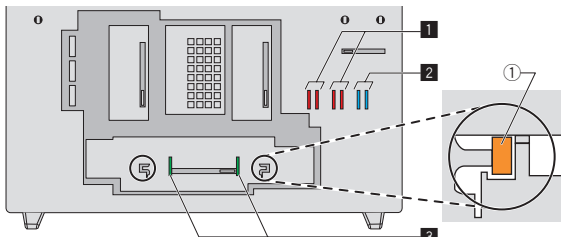
- ネジを外すときは 1 番のサイズのドライバーをお使いください。1 番のサイズ以外のドライバーを使うとネジが破損する恐れがあります。

## 4 アルミパネルを取り外す



## 5 クッションを交換する

取り付け済みのフェーダークッション C (下図 3) を、お好みの硬さのクッションと交換してください。

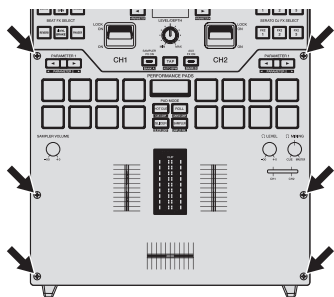


- |   |                         |
|---|-------------------------|
| 1 | フェーダークッション A (硬さ: 硬い)   |
| 2 | フェーダークッション B (硬さ: 軟らかい) |
| 3 | フェーダークッション C (硬さ: やや硬い) |

- クッションが取り外しにくい場合はピンセットなどをお使いください。
- クッションは製品内部に落とさないように注意してください。
- クッションが破損する場合がありますので、無理にねじったり引っ張ったりしないでください。
- クッションを交換した後は、「各種設定を変更する」(p.35)を参考にクロスフェーダー両端の音の出ない範囲を調整してください。
- フェーダークッション A をフェーダーユニット両脇の孔 (上図 ①) に縦に差し込むとフェーダーユニットを固定することができます。お好みによりクッションを差し込んでお使いください。

## 6 アルミパネルを取り付け、ネジを締める

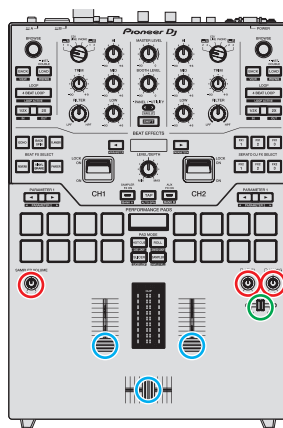
前の手順で外した 6 か所のネジを締めます。



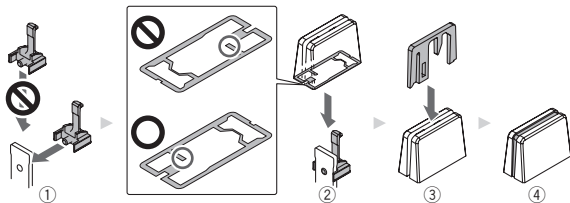
- ネジを締める前に内部に部品やゴミなどが落ちていないかご確認ください。
- ネジが破損する場合がありますので、強く締め過ぎないでください。
- ネジを締めるときはネジの頭をつぶさないようにご注意ください。
- 部品が破損する場合がありますので、絶対にネジを斜めに取り付けしないでください。

## 7 ツマミを取り付ける

前の手順で外した 7 か所のつまみを取り付けます。



- ロータリーつまみとフェーダーつまみ (小) は挿し込み式です。垂直に押し込んで取り付けてください。
- フェーダーつまみ (小) はつまみの中心の穴に軸を挿して取り付けてください。
- ロータリーつまみは軸の向き (D カット面) に注意して、つまみの向きを合わせて取り付けてください。
- 部品が破損する恐れがありますので、ななめに取り付けたり、強く押し込みすぎたりしないでください。
- フェーダーつまみ (大) の取り付け方は下図を参考にしてください。



- ① ベース部を横から差し込む
- ② ツマミ部を向きに注意して差し込む
- ③ 指示線部を向きに注意して差し込む

## 部品の購入について

- 紛失および破損などにより部品が必要な場合は、有償にてご購入していただくことができます。  
下記の部品名称および部品番号をご確認後、修理受付窓口へご依頼ください。

部品名称	個数	部品番号
ロータリーツマミ	1	DAA1336
フェーダーツマミ (小)	1	DAC3088
フェーダーツマミ (大) (指示線部)	1	DAC2685
フェーダーツマミ (大) (ツマミ部)	1	DAC3089
フェーダーツマミ (大) (ベース部)	1	DNK6440
ネジ	1	DBA1446
フェーダークッション A	1	GNK1010
フェーダークッション B	1	DEC3596
フェーダークッション C	1	DEC3605

## ❖ 本件についての修理および部品購入に関するご質問、ご相談

下記に記載の修理受付窓口にご相談ください。  
連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：DJ ミキサー
- 型番：DJM-S9
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容
- ご購入を希望される部品名称と部品番号、および個数

<各窓口へお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる電話番号は、携帯電話・PHS・一部のIP電話などからはご使用になれません。

ナビダイヤルは、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。また一部のIP電話などからはご使用になれません。

正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただきますようお願いいたします。

## 修理についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

### 修理受付窓口

受付時間 月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

- 電話 【固定電話から】 0120-5-81028（無料）  
【携帯電話・PHSから】 0570-037-610（ナビダイヤル・有料）
- ファックス 0120-5-81029（無料）
- インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/purpose/repair/>  
※インターネットによる修理のお申し込みを受け付けております

## 部品のご購入についてのご相談窓口 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただけますようお願いいたします

- 部品（付属品、取扱説明書など）のご購入について

### 部品受注センター

受付時間 月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

- 電話 【固定電話から】 0120-5-81095（無料）  
【携帯電話・PHSから】 0570-057-140（ナビダイヤル・有料）
- ファックス 0120-5-81096（無料）



# ユーティリティーモードで本機の設定を変更する

## ユーティリティーモードを起動する

- ユーティリティーモード中は、[TAP] ボタンで [SHIFT] ボタンと同じ操作が行えます。また、[SAMPLER FX ON] ボタンと [AUX FX ON] ボタンで [BEAT ◀▶] ボタンと同じ操作が行えます。

1 [PANEL/UTILITY] ボタンを 1 秒以上押す  
[UTILITY] モード設定画面が表示されます。

2 [BEAT ◀▶] ボタンを押す  
設定項目を選びます。

3 [SHIFT] ボタンを押す  
設定項目の設定値変更画面に切り換わります。

4 [BEAT ◀▶] ボタンを押す  
設定値を変更します。

5 [SHIFT] ボタンを押す  
設定値を決定します。  
元の画面に戻ります。

- 設定値を変更しないまま元の画面に戻るときは [PANEL/UTILITY] ボタンを押します。

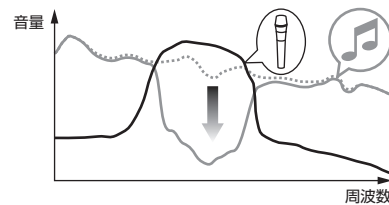
6 [PANEL/UTILITY] ボタンを押す  
[UTILITY] モード設定画面を閉じます。

## オートスタンバイ機能について

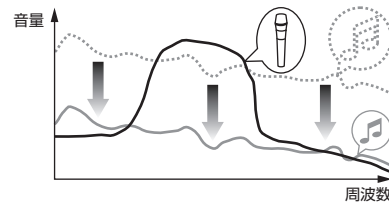
- [AUTO STANDBY] を [ON] に設定しているとき、以下の条件をすべて満たしたまま 10 時間を過ぎると自動的にスタンバイ状態になります。
- 本機のボタンやツマミなどを操作していない。
  - 本機の入力端子に  $-10$  dB 以上の音声信号が入力されない。
  - [PANEL/UTILITY] ボタンを押すとスタンバイ状態が解除されます。
  - 本機は、オートスタンバイ機能をオンに設定して出荷しています。オートスタンバイ機能をお使いにならないときは、[AUTO STANDBY] を [OFF] に設定してください。

## トークオーバー機能について

- トークオーバー機能には、以下 2 つのモードがあります。
- [ADV] (アドバンスド・トークオーバー) : [MIC] チャンネル以外の音声は [TALKOVER LEVEL] の設定値に従って、中音域だけ減衰して出力されます。



- [NORMAL] (ノーマルトークオーバー) : [MIC] チャンネル以外の音声は [TALKOVER LEVEL] の設定値に従って減衰して出力されます。



## 設定項目一覧

\* : お買い上げ時の設定

設定項目	画面表示	設定値	説明
AUTO STANDBY	ON/OFF	ON	オートスタンバイモードのオン / オフ設定
MIC TALKOVER	ADV/NORMAL	ADVANCED	マイクトークオーバーモードの設定
TALKOVER LEVEL	-6 dB、-12 dB、-18 dB*、-24 dB	-18 dB	トークオーバーオン時のトークオーバーレベルの設定
MIC LOW CUT	ON/OFF	ON	マイクの LOW カットフィルターのオン / オフ設定
MIC TO BOOTH	ON/OFF	ON	[BOOTH] 端子から出力される音声にマイク音をミックスする / しない設定
MIC LIMITER	ON/OFF	ON	[MIC] 端子に入力される音声へのピークリミッターオン / オフ設定
MASTER LIMITER	ON/OFF	ON	[MASTER] 端子から出力される音声へのピークリミッターオン / オフ設定
BOOTH ATT.	0 dB、-6 dB、-12 dB	0 dB	[BOOTH] 端子から出力される音声の減衰レベル設定
MASTER OUT	mono/stereo	stereo	[MASTER 1] 端子および [MASTER 2] 端子から出力される音声のモノラル / ステレオ設定
BOOTH OUT	mono/stereo	stereo	[BOOTH] 端子から出力される音声のモノラル / ステレオ設定
LED BRIGHTNESS	1-3	1	LED および有機 EL ディスプレイの明るさ設定 (値が大きいほど明るい)
Factory Reset	CANCEL/reset	CANCEL	すべての設定を初期設定値に戻します。

① マスターレベルインジケーターが一番上まで点灯していなくても、出力音声に歪むことがありますのでご注意ください。

## 設定ユーティリティで本機の設定を変更する

設定ユーティリティを使って以下の内容を確認および設定できます。

- 本機の [INPUT SELECT] スイッチの状態を確認する
- 本機からコンピューターへの音声データ出力を設定する
- バッファサイズを調整する (Windows ASIO 使用時)
- ファームウェアとドライバーソフトウェアのバージョンを確認する
- BEAT FX のエフェクトの種類を変更する
- DJM-S9 の動作の設定を変更する

## 設定ユーティリティを表示する

### Windows のとき

[スタート]メニュー>[すべてのプログラム]>[Pioneer]>[DJM-S9]>[DJM-S9 Settings Utility] をクリックする

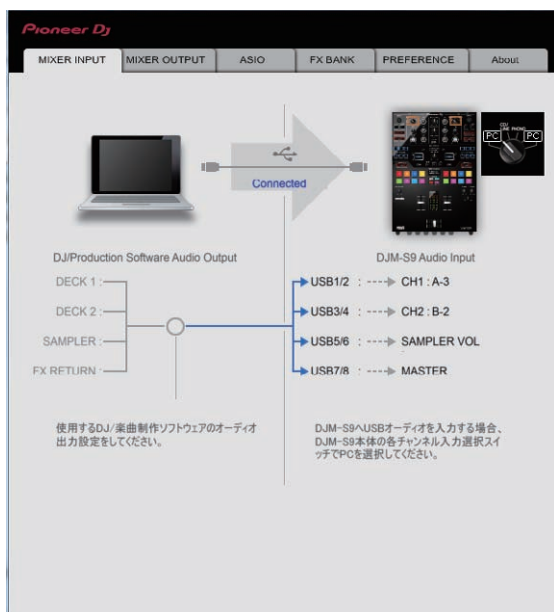
### Mac OS X のとき

[Macintosh HD] アイコン>[Application]>[Pioneer]>[DJM-S9]>[DJM-S9 Settings Utility] をクリックする

## 本機の [INPUT SELECT] スイッチの状態を確認する

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

### [MIXER INPUT] タブをクリックする

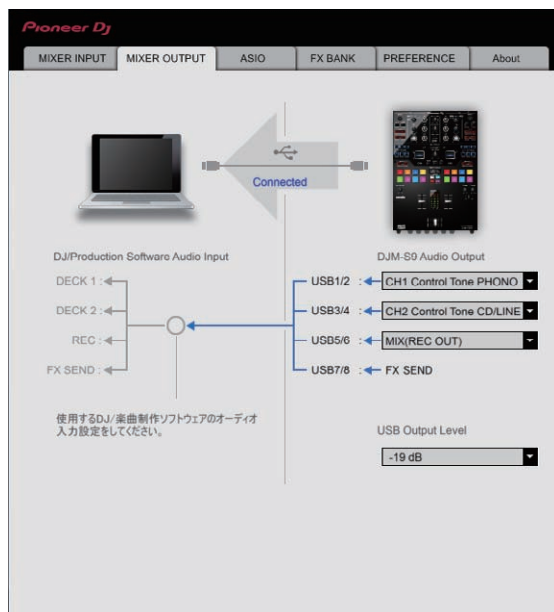


## 本機からコンピューターへの音声データ出力を設定する

本機を既定のオーディオデバイスとして使用している Serato DJ が起動しているときは、Serato DJ 側で音声データの出力を設定してください。

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

### 1 [MIXER OUTPUT] タブをクリックする



### 2 [Mixer Audio Output] のプルダウンメニューをクリックする

本機内部の音声信号の流れの中から、コンピューターへ出力する音声データを選んで設定します。

CH1	CH2	CH3	CH4
CH1 Control Tone PHONO <sup>[1]</sup>	CH2 Control Tone PHONO <sup>[1]</sup>	MIX (REC OUT) <sup>[2][4]</sup>	FX SEND
CH1 Control Tone CD/LINE <sup>[1]</sup>	CH2 Control Tone CD/LINE <sup>[1]</sup>	Cross Fader A <sup>[2][3]</sup>	—
Post CH1 Fader <sup>[2]</sup>	Post CH2 Fader <sup>[2]</sup>	Cross Fader B <sup>[2][3]</sup>	—
Cross Fader A <sup>[2][3]</sup>	Cross Fader A <sup>[2][3]</sup>	MIC	—
Cross Fader B <sup>[2][3]</sup>	Cross Fader B <sup>[2][3]</sup>	AUX	—
MIC	MIC	Post CH1 Fader <sup>[2]</sup>	—
AUX	AUX	Post CH2 Fader <sup>[2]</sup>	—

- [1] [USB Output Level] の設定に関係なく本機に入力された音量のまま出力されます。
- [2] 録音用途以外で使うときは、音声のループが発生しないよう DJ アプリケーションの設定に注意してください。音声のループが発生すると、意図していない音量の音声が入力される可能性があります。
- [3] [ECHO]、[DELAY]、[SPIRAL] のエフェクトがかかった音声は [Cross Fader A] [Cross Fader B] から出力されます。
- [4] [REVERB] のエフェクトのかかった音声は [MIX (REC OUT)] からだけ出力されます。

### 3 [USB Output Level] のプルダウンメニューをクリックする

本機から出力される音声データの音量を調節します。

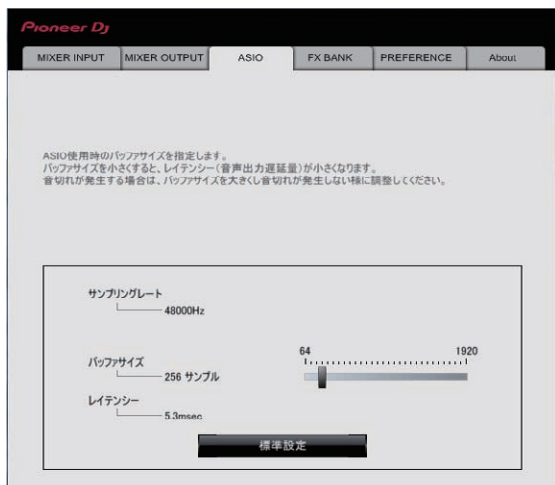
- [USB Output Level] の設定はすべての音声データに対して共通です。ただし、手順 2 の表の [1] を選んでいるときは本機に入力された音量のまま出力されます。
- DJ ソフトウェアの音量調節だけで十分な音量が得られないときは、[USB Output Level] を変更して本機から出力される音声データの音量を調節してください。音量を上げすぎると音声がかき消されることがありますのでご注意ください。

## バッファサイズを調整する (Windows ASIO 使用時)

本機を既定のオーディオデバイスとして使っているアプリケーション (DJ ソフトウェアなど) が起動しているときは、そのアプリケーションを終了させてからバッファサイズを調整してください。

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

## [ASIO] タブをクリックする

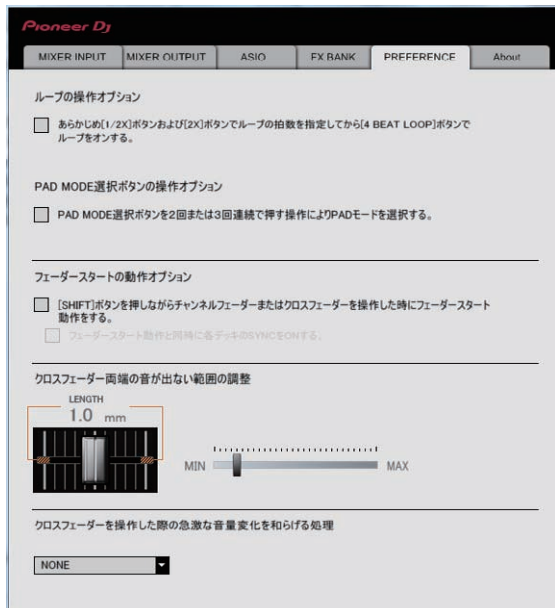


- バッファサイズを大きくすると、音声データの脱落（音とぎれ）などが生じにくくなりますが、音声データの伝送遅延（レイテンシー）によるタイムラグが増大します。

## エフェクトの種類をお好みの設定に変更する

[FX BANK] タブを使用して本機に搭載されている [BEAT FX] と [FILTER] ツマミのエフェクトをお好みのエフェクトに変更することができます。詳しくは「FX BANK 機能を使う」(p.24) を参照してください。

## 各種設定を変更する



[PREFERENCE] タブで以下の項目の設定が変更できます。

- [4BEAT LOOP] ボタンの動作  
チェックボックスにチェックを入れると本機の [4BEAT LOOP] ボタンが [AUTO BEAT LOOP] ボタンとして動作します。
- パッドモードボタンの操作  
チェックボックスにチェックを入れるとパッドモードを切り換えるときに、パフォーマンスパッドを「2回連続で押す機能」と「3回連続で押す機能」が有効になります。
  - 本機にコンピューターを2台接続し、[INPUT SELECT] スイッチで [CH1] と [CH2] がそれぞれ別のコンピューターを選択してい

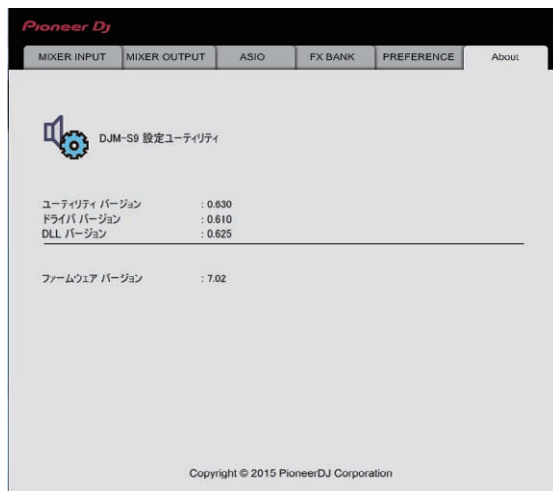
るときは、それぞれのコンピューターの設定がオンのときだけ有効になります。

- フェーダースタートの動作  
チェックボックスにチェックを入れるとフェーダースタート機能が有効になります。フェーダースタート機能の詳細に関しては「フェーダースタート機能を使う」(p.19) を参照してください。
- クロスフェーダー両端の音の出ない範囲調整  
スライダーを動かすことによりクロスフェーダー両端の音の出ない範囲を調整することができます。
  - 本機にコンピューターを2台接続し、[INPUT SELECT] スイッチで [CH1] と [CH2] が [CD/LINE] もしくは [PHONO] を選択しているときは、この設定は無効になり初期設定値で動作します。
- クロスフェーダーを操作した際の急激な音量変化を和らげる  
クロスフェーダーを操作した際に急激に音量が変化するような場面において、音量変化にかかる時間を調節しマイルドな音にすることができます。
  - 本機にコンピューターを2台接続し、[INPUT SELECT] スイッチが以下の場合には [NONE] で動作します。
    - [INPUT SELECT] スイッチで [CH1] と [CH2] がそれぞれ別のコンピューターを選択しているとき
    - [INPUT SELECT] スイッチで [CH1] と [CH2] が [CD/LINE] もしくは [PHONO] を選択しているとき

## ファームウェアとドライバーソフトウェアのバージョンを確認する

あらかじめ設定ユーティリティを表示してください。

### [About] タブをクリックする



## ドライバーソフトウェアの最新情報を確認する

本機の専用ドライバーソフトウェアの最新情報については、下記ホームページを参照してください。

<http://pioneerdj.com/support/>

- 1台のコンピューターに本機を複数台接続したときは、動作を保証できません。

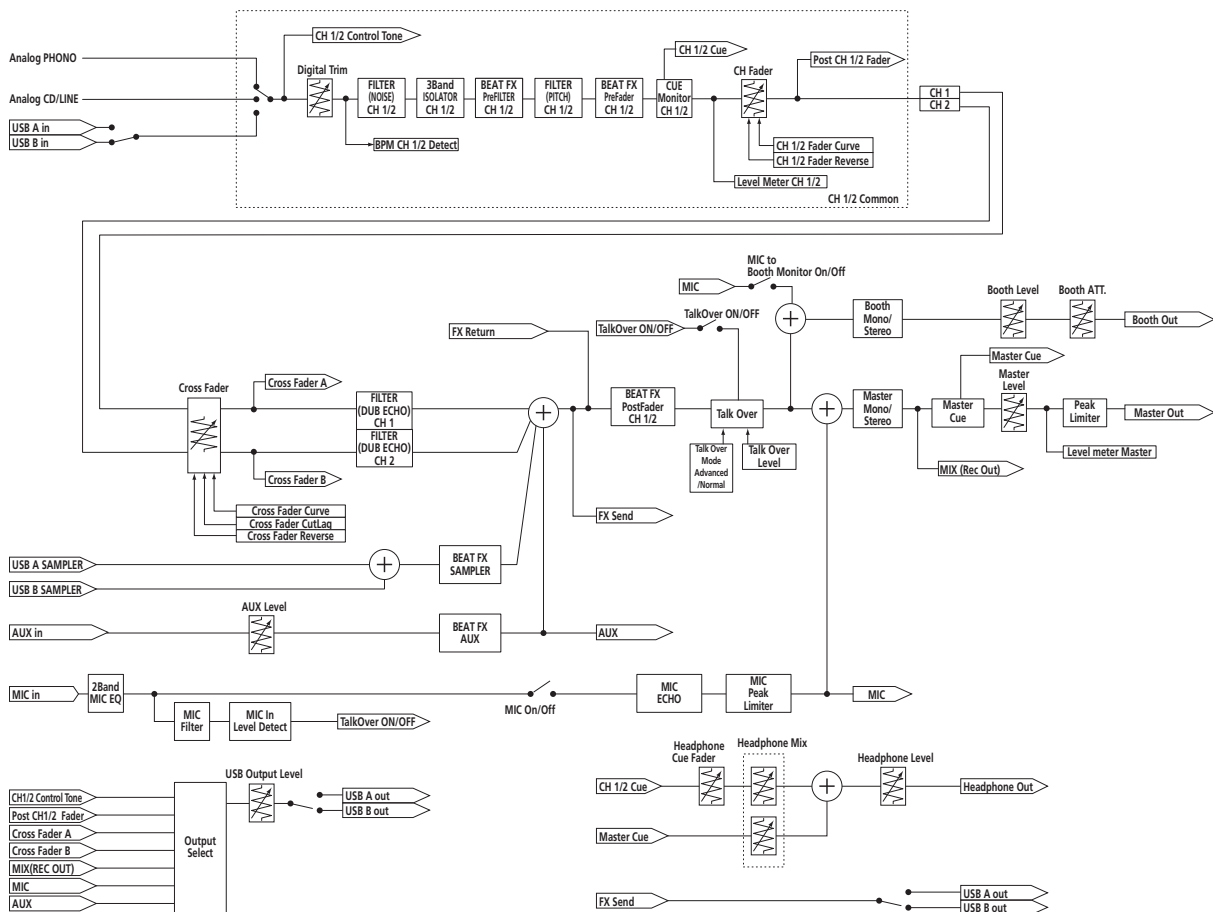
# その他

## 故障かな？と思ったら

- 故障かな？と思ったら、下記の項目および Pioneer DJ サポートページの [FAQ/DJ ソフトウェア等のサポート情報] へアクセスして、[DJM-S9] の [よくある質問] を確認してください。  
<http://pioneerdj.com/support/>  
 また、本機と接続している機器もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは、37 ページの「保証とアフターサービス」をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。
- 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しないことがあります。このようなときは、電源コードを一度抜いて差し込み直すことで正常に動作することがあります。

こんなときは	ここを確認してください	対応の仕方
電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていますか？	電源コードをコンセントへ接続してください。
音が出ない、または音が小さい。	[INPUT SELECT] スイッチの位置が正しく設定されていますか？	[INPUT SELECT] スイッチを切り換えて、チャンネルの入カソースを切り換えてください。(7 ページ)
	接続ケーブルが正しく接続されていますか？	接続ケーブルを正しく接続してください。(11 ページ)
	端子やプラグが汚れていませんか？	端子やプラグの汚れを拭き取ってから接続してください。
	[MASTER ATT] が [-6 dB] または [-12 dB] に設定されていますか？	[MASTER ATT] レベル切替スイッチを [0 dB] に切り換えてください。(9 ページ)
マイクの音が出ない、または小さい。	MIC 入力レベル切替スイッチが適切に設定されていますか？	MIC 入力レベル切替スイッチを [MIC] に切り換えてください。(9 ページ)
音がひずむ。	[MASTER] 端子から出力されている音声レベルは適切に設定されていますか？	マスターレベルインジケーターの [0 dB] 付近がピークレベルで点灯するように [MASTER LEVEL] ツマミを調整してください。(7 ページ)
	各チャンネルに入力されている音声レベルは適切に設定されていますか？	チャンネルレベルインジケーターの [0 dB] 付近がピークレベルで点灯するように [TRIM] ツマミを調整してください。(7 ページ)
マイクの音がひずむ。	MIC 入力レベル切替スイッチが適切に設定されていますか？	MIC 入力レベル切替スイッチを [LINE] に切り換えてください。(9 ページ)
DJ プレーヤーのフェーダースタートができない。	設定ユーティリティの [PREFERENCE] タブで [フェーダースタートの動作オプション] の項目にチェックが入っていますか？	設定ユーティリティの [PREFERENCE] タブで [フェーダースタートの動作オプション] の項目にチェックを入れてください。(35 ページ)
BEAT FX が効かない。	[BEAT FX SELECT] ボタンおよび [LEVEL/DEPTH] ツマミが正しく設定されていますか？	[BEAT FX SELECT] ボタンおよび [LEVEL/DEPTH] ツマミを正しく設定してください。(20 ページ)
FILTER エフェクトが効かない。	[FILTER] ツマミを適切な位置に設定していますか？	[FILTER] ツマミを左右に回してください。
テンポ (BPM) が測定できない、またはテンポ (BPM) の測定値がおかしい。	音声入力レベルが高すぎませんか？ または音声入力レベルが低すぎませんか？	チャンネルレベルインジケーターの [0 dB] 付近がピークレベルで点灯するように [TRIM] ツマミを調整してください。(7 ページ) 曲によってはテンポ (BPM) が測定できない場合があります。[TAP] ボタンを使って手動でテンポを入力してください。(8 ページ)
測定したテンポ (BPM) の値が CD の記載値と異なる。	—	BPM の測定法が異なるため、多少異なった値を示すことがあります。
MIDI コントロールできない。	MIDI 設定が正しく設定されていますか？	本機で Serato DJ 以外の DJ ソフトウェアを操作するときは、本機の MIDI メッセージをお使いの DJ ソフトウェアにアサインする必要があります。アサイン方法については、お使いの DJ ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
コンピューターに接続しても本機が認識されない。	コンピューターにドライバソフトウェアが正しくインストールされていますか？	ドライバソフトウェアをインストールしてください。インストール済みのときは、再度インストールしてください。(3 ページ)
コンピューターの音声の本機から出力されない。	本機とコンピューターが正しく接続されていますか？	本機とコンピューターは付属の USB ケーブルで直接接続してください。(11 ページ)
	音声出力デバイス設定が正しく設定されていますか？	音声出力デバイス設定で本機を選んでください。お使いのアプリケーションの設定方法については、お使いのアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。
	[INPUT SELECT] スイッチの位置が正しく設定されていますか？	[INPUT SELECT] スイッチを [ ] の位置に設定してください。(15 ページ)
ヘッドフォンで BEAT FX のエフェクト音がモニターできない。	—	[ECHO]、[REVERB]、[DELAY]、および [SPIRAL] のエフェクト音を生成する処理はクロスフェーダー処理よりも後ろに配置されているためエフェクト音はモニターできません。故障ではありません。
アナログプレーヤーを本機の [PHONO] 端子に接続すると音が歪む。 また、[TRIM] ツマミを回してもチャンネルレベルインジケーターの点灯が変わらない。	フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーを接続していませんか？	フォノイコライザー内蔵のアナログプレーヤーは [CD/LINE] 端子に接続してください。(11 ページ)
	アナログプレーヤーと本機の間にコンピューター用のオーディオインターフェイスが接続していませんか？	コンピューター用のオーディオインターフェイスの出力がラインレベルのときは、[CD/LINE] 端子に接続してください。(11 ページ) アナログプレーヤーに PHONO/LINE 切替スイッチがあるときは、PHONO に切り換えてください。

# ブロックダイアグラム



その他

## 保証とアフターサービス

### 修理に関するご質問、ご相談

裏表紙に記載の修理受付窓口、またはお買い求めの販売店にご相談ください。

### 保証書（取扱説明書（クイックスタートガイド）の裏表紙に記載）

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。保証書に販売店名や購入日の記載がない場合は、本製品のご購入の際に受け取られた、購入日が明記されている購入証明書（レシート、納品書、受注メールなど）が必要となります。保証書とともに大切に保管してください。

保証期間は購入日から 1 年間です。

### 補修用性能部品の最低保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

### 修理を依頼される時

本製品の取扱説明書をお読みいただき、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しないときには、必ず電源プラグを抜いてから、次の要領で修理を依頼してください。

### 連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：DJ ミキサー
- 型番：DJM-S9
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容  
「いつ、どのくらいの頻度で、どのような操作で、どうなる」といった詳細

### 保証期間中は

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている弊社保証規定に基づき修理いたします。

### 保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

---

---

## 商標および登録商標について

- 「Pioneer DJ」は、パイオニア株式会社の商標であり、ライセンスに基づき使用されています。その他記載されている会社名および製品名等は、各社の登録商標または商標です。

---

---

## 著作権についてのご注意

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- CD などから録音される音楽は、各国の著作権法ならびに国際条約で保護されています。また、録音した者自身が、それを合法的に使用するうえでのすべての責任を負います。
- インターネットなどからダウンロードされる音楽を取り扱う際は、ダウンロードした者自身が、ダウンロードサイトとの契約に則ってそれを使用するうえでのすべての責任を負います。

© 2015 Pioneer DJ 株式会社 禁無断転載  
<DRJ1040-A>